

中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	中国研究の諸分野について専門的知識を習得し、自らの見解を表明できる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国研究の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	中国に関する諸問題に関心を持ち、広い視野から問題解決の方法を模索し行動することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国の歴史・経済・政治の分野において、研究をすすめる上で必須の専門知識を習得し、中国研究の研究方法を理解し、特に研究文献と一次資料の取り扱い方、一次資料から自説を立論する手法を重んじ、問題解決力を身につける。

【高度な専門的知識・技能】

専門分野の研究に関する研究概況を理解し、研究に必要な語学力を有し、研究文献を収集できる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げ、自説としてまとめることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、論文の構成を思考できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

中国研究概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回：全教員-授業ガイダンス
- 2 回：白石-中国経済を分析する視点 - 開発ミクロ経済学からのアプローチ
- 3 回：白石-中国経済への分析アプローチ（１）論文を読む
- 4 回：白石-中国経済への分析アプローチ（２）分析手法
- 5 回：白石-中国経済研究から得られる知見と展望
- 6 回：堀地-中国近代史の学術論文が完成するまで
- 7 回：堀地-中国近代史研究とインターネット利用
- 8 回：堀地-歴史資料を読解し分析する（１）中文史料
- 9 回：堀地-歴史資料を読解し分析する（２）日文史料
- 10 回：下野-中国政治を分析する視点
- 11 回：下野-中国政治への歴史的アプローチ（論文を読む）
- 12 回：下野-中国政治への政治学的アプローチ（論文を読む）
- 13 回：下野-資料の収集と読解
- 14 回：全教員-総合討論と学生研究報告（１）報告
- 15 回：全教員-総合討論と学生研究報告（２）総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価、授業中の報告等と学生研究報告で 100% 評価する。これらよりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に教員が提示した課題を準備して出席すること、また授業後に教材を見直し論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

講義だけでなく、受講生による報告や実習等も行う。中国の歴史・政治・経済を専門とする学生の履修が望ましい。中国の文学・言語学・文化等を専門とする者には非常に難である。現代中国語と古典中国語の語学力が必要である。中国語未習者には、本科目の履修を薦めない。また、英語文献を取り扱うこともある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国近代史 一次資料 中国政治 中国経済 現代中国

東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	東南アジア地域の歴史、政治や社会についての専門的知識や理解力を修得する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	自ら先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような態度を育成する。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			東南アジア研究概論	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近現代東南アジアの歴史、政治や社会について体系的に学び、当該地域に対する理解を深めることができるように指導する。(オムニバス方式 / 全15回)

1 田村慶子 / 5回

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治、社会、エスニシティ、国民統合に関する文献を読み、受講生との討論を中心に授業を進める。

2 伊野憲治 / 5回

東南アジア、特にミャンマーを中心に、民主化問題を扱い、政治と文化の関係性に注目しながら文献を選び、受講生との討論を行っていく。

3 篠崎香織 / 5回

植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。ナショナリズム、移民などのテーマを中心に文献を選び、受講生による報告・討論を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

東南アジア地域の歴史、政治や社会についての専門的知識や理解力を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

自ら先行研究を収集し、その問題点も発見しながら問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような自律的かつ主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

* これは学部3 - 4年生用の教科書であるので、大学院受講生の学力や知識によっては変わることもある。

弘末雅士『東南アジアの港市世界—地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。

加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落 (岩波講座東南アジア史第6巻)』岩波書店、2002年。

池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開 (岩波講座東南アジア史 第7巻)』岩波書店、2002年。

東南アジア研究概論 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 白石隆『海の帝国ーアジアをどう考えるか』中公新書、2000年。
- ベネディクト・アンダーソン(白石隆・白石さや訳)『想像の共同体ーナショナリズムの起源と流行』NTT出版、1997年。
- 東南アジア学会監修『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。
- 伊野憲治『アウンサンスーチーの思想と行動』アジア女性交流・研究フォーラム、2001年。
- 工藤年博編『ミャンマー政治の実像ー軍政23年の功罪と新政権のゆくえー』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【田村担当】

- 第1回 教科書、参考文献、スケジュールなどの説明。
- 第2回 『東南アジア現代政治入門』序章および第一章の輪読と議論
- 第3回 『東南アジア現代政治入門』第二章および第三章の輪読と議論
- 第4回 『東南アジア現代政治入門』第四章および第五章の輪読、議論
- 第5回 『東南アジア現代政治入門』第六章の輪読および議論、まとめの議論

【伊野担当】

- 第6回 東南アジア諸国における民主化についてーミャンマーを中心にー(講義)
- 第7回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論(理論に関する邦語論文の輪読)
- 第8回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論(理論に関する英語論文の輪読)
- 第9回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論(ミャンマーに関する邦語文献の輪読)
- 第10回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論(ミャンマーに関する英語文献の輪読)

【篠崎担当】

- 第11回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：序章～第4章
- 第12回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：第5章～終章
- 第13回 『植民地経済の繁栄と凋落』の輪読、議論。
- 第14回 『植民地経済の繁栄と凋落』および『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。
- 第15回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告や議論などの日常の授業への取り組み 70%
- レポート 30%
- によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前に文献を読むこと、事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

- 東南アジア、港市国家、植民地支配、ナショナリズム、華僑、華人
- ミャンマー民主化、アウンサンスーチー

アメリカ社会概論 【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	アメリカ社会理解に必要な基礎的な知識を修得する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する基礎的な力を修得する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる基礎的な力を修得する。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ社会概論	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のD・トランプ政権までの政治基調を見た後、そうした政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

《高度な専門的知識・技能》 アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》 自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》 受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治』第3版(有斐閣アルマ 2017年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 21世紀後における保守主義政治の転回【保守主義】
- 第3回 トランプ政権のイデオロギー【D・トランプ】
- 第4回 オバマ政権の歴史的位相【B・オバマ】
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 アメリカ政治を動かす力【世論】【利益政治】
- 第8回 1980年代における国家論の再興【国家論】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1990年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【リベラル・コンセンサス】
- 第14回 1980年代における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

アメリカ社会概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

アメリカ人種関係概論 【昼】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	アメリカ合衆国の人種関係について、広く知識を習得している。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理し、一次史料を用いて議論を組み立てることができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ人種関係概論	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、史的・総合的に取り扱う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ合衆国の人種関係について、広く知識を習得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理し、一次史料を用いて議論を組み立てて表現し、問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも自律的かつ主体的に関心を持つことができる。

教科書 /Textbooks

Lawrence H. Fuchs, The American Kaleidoscope: Race, Ethnicity, and the Civic Culture, Hanover, NH: Wesleyan University Press, 1990.
Marc Dollinger, Quest for Inclusion: Jews and Liberalism in Modern America, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000.
Matthew Frye Jacobson, Whiteness of a Different Color: European Immigrants and the Alchemy of Race, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1998.
Murray Friedman, What Went Wrong?: The Creation & Collapse of the Black-Jewish Alliance, New York: Free Press, 1995.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

アメリカ人種関係概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション
- 2 . アメリカ人種関係論の概要
- 3 . 新しい「社会史」の登場
- 4 . アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
- 5 . アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
- 6 . 「白人性（ホワイトネス）」議論の登場
- 7 . ホワイトネス各論 1 : M.ジェイコブソン
- 8 . ホワイトネス各論 2 : D.ローディガー
- 9 . ホワイトネス各論 3 : その他の主要な著作
- 10 . 人種混淆の理論
- 11 . ユダヤ人 - 黒人関係の歴史的展開 : 20世紀前半
- 12 . ユダヤ人 - 黒人関係の歴史的展開 : 20世紀後半
- 13 . その他のグループ間関係
- 14 . 21世紀のアメリカの人種関係
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%
によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係研究概論 【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	国際関係の理論、国際経済、国際政治の基礎について包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する資料の収集と分析ができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する事項について、修得した知識と技術を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			国際関係研究概論	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際関係研究の基礎となる国際政治および国際経済の理論を主に学びます。そのうえで専門科目を学ぶにあたっての基礎的な素養をしっかりと身につけます。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：大学院で国際関係を研究するにあたって、最低限必要とされる国際政治および国際経済の専門的知識を身につけ、それをもとに高度な文章を理解することができる。

高い問題解決能力と表現力：高度な内容に対して、学んだ知識をもとに議論することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：修得したアカデミックスキルに基づいて、高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、各回の授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 国際関係の成立と拡大：ウェストファリア体制（担当：阿部容子）
- 第3回 リアリズム：勢力均衡、覇権安定論
- 第4回 リベラリズム：機能主義、相互依存論、国際レジーム論
- 第5回 コンストラクティビズム：間主観性、規範の役割
- 第6回 国際政治におけるグローバルサウス（1）バンドン精神と非同盟運動（担当：大平 剛）
- 第7回 国際政治におけるグローバルサウス（2）資源ナショナリズムとNIEO
- 第8回 国際政治におけるグローバルサウス（3）新自由主義と構造調整政策
- 第9回 国際政治におけるグローバルサウス（4）新興国の台頭と南南協力
- 第10回 国際貿易の経済分析（1）比較優位と分業の利益（担当：魏 芳）
- 第11回 国際貿易の経済分析（2）貿易政策の効果と保護貿易
- 第12回 国際貿易の経済分析（3）貿易政策の政治経済学
- 第13回 紛争と安全保障（1）戦争の形態変化、軍事制度の発展（担当：中野博文）
- 第14回 紛争と安全保障（2）国際法の発展、帝国と覇権
- 第15回 紛争と安全保障（3）戦略、同盟、集団安全保障

国際関係研究概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%（20%×4本）によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に各回で学ぶ内容について、予備知識を文献やインターネットを通して得ておくこと。事後学習としては、レポート課題が出されるので、テーマに則した文献や資料を収集してレポートを書くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、東アジア専攻の4名の教員によってオムニバス形式で行われます。

キーワード /Keywords

中国社会史研究【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	中国社会の歴史について専門知識を習得し、自らの見解を表明することができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国社会史の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	中国社会の歴史に関する専門知識に基づいて、中国の社会問題を歴史的に理解し、問題解決の方法を模索することができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国社会史研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本科目は漢族を中心とする中国人社会が如何なる人的結合を核として構成され、それがどのような歴史的変遷を経て今日に到るのかを考察する。重点的には、中華人民共和国の土地改革によって変革された旧中国社会(明清時代)と現在の社会主義体制下の中国社会とを歴史的に対照させ、また日本伝統社会と比較しながら、中国社会の構成原理と特質を講じてゆきたい。

【高度な専門的知識・技能】

専門分野の研究文献を判読し知識を獲得することができる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げ、自説を形成できる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、課題を解決できる。

教科書 /Textbooks

・ 上田信『海と帝国』（講談社、2005年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 井上徹等編『東アジア近世都市における社会的結合』（清文堂、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスと文献の配布
- 第2回 中国という社会空間
- 第3回 明朝の成立
- 第4回 明朝統治の特質
- 第5回 交易の発展と社会変容
- 第6回 商人社会
- 第7回 社会秩序の変容
- 第8回 北辺貿易と清朝の成立
- 第9回 産業の発展
- 第10回 伝統中国の完成
- 第11回 伝統中国社会と環境問題
- 第12回 伝統中国社会と近世日本社会
- 第13回 土地改革と伝統中国社会の解体
- 第14回 改革開放下中国社会の構造
- 第15回 まとめ（総合的考察-伝統中国社会と現代中国社会）

中国社会史研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告（６０％）・討論（４０％）により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告の準備を入念に行うこと、事後に論点整理と課題を明確にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

明朝、交易、商人、北辺貿易、清朝、伝統社会、土地改革、改革開放

現代中国政治研究【昼】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	中国政治およびそれに関連する事項について広く知識を修得し、専門的な見地から議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国政治およびそれに関連する事項について先行研究を収集することができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	中国政治およびそれに関連する事項について修得した知識・技能を生かして、広い視野から国際社会について考えることができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			現代中国政治研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国の歴史、政治体制、社会について広く知識を修得し、この地域の諸問題について学術的な観点から議論できるようになることを授業の目的とする。詳細は受講生の研究テーマとの関連で決める。必要に応じて台湾・香港等に関する文献を取り上げることもある。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

中国政治とそれに関連する事項について広く知識を修得し、専門的な見地から議論できる。

《高い問題解決能力と表現力》

中国政治とそれに関連する事項について先行研究を収集できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

中国政治とそれに関連する事項について修得した知識・技能を生かして、広い視野から国際社会について考えることができる。

教科書 /Textbooks

下記を予定しているが、受講生の研究テーマに応じて変更することがある。

菱田雅晴・鈴木隆『超大国・中国のゆくえ3 共産党とガバナンス』東京大学出版会、2016年

下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年 (○)

山本真『近現代中国における社会と国家 - 福建省での革命、行政の制度化、戦時動員』創文社、2016年

川島真『中国のフロンティア-揺れ動く境界から考える』岩波新書、2017年 (○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマによって別途紹介するが、視点の違いによって下記のような文献がある (一例)。

天児慧『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動 - 毛沢東vs.鄧小平』講談社、2004年 (○)

加茂具樹他編著『中国改革開放への転換 - 「一九七八年」を越えて』慶應義塾大学出版会、2011年 (○)

毛里和子『現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年 (○)

田原史起『中国農村の権力構造-建国初期のエリート再編』御茶の水書房、2004年 (○)

現代中国政治研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※受講生の研究テーマに応じて、一部変更することがある。また、各回において、関連する論文を合わせて読み、議論することもある。

- | | | |
|------|-------------------------------------|-----------|
| 1 回 | イントロダクション | |
| 2 回 | 菱田他『超大国・中国のゆくえ 3 共産党とガバナンス』序章・第 1 章 | |
| 3 回 | ” | 第2章 |
| 4 回 | ” | 第3章 |
| 5 回 | ” | 第4章 |
| 6 回 | ” | 第5章 |
| 7 回 | ” | 第6章・終章 |
| 8 回 | 下野『中国外資導入の政治過程-対外開放のキーストーン』前半 | |
| 9 回 | ” | 後半 |
| 10 回 | 山本『近現代中国における社会と国家』序章・第1～5章 | |
| 11 回 | ” | 第6・7章 |
| 12 回 | ” | 第8～11章、終章 |
| 13 回 | 川島『中国のフロンティア-揺れ動く境界から考える』前半 | |
| 14 回 | ” | 後半 |
| 15 回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・発表50%、課題提出物50%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題文献をしっかりと読み込んでレジユメを作成し、授業に臨むこと。
授業の議論について必ず振り返りを行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

現代中国の近現代史・政治・経済・社会などについて基礎的な知識を備えていることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際政治研究【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	東アジアの国際政治について、専門的な知見を有している。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	東アジアの国際政治について、社会科学的な調査や分析を行うことができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	東アジアの国際政治に関して、修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			東アジア国際政治研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、日韓国交正常化交渉を切り口として、脱植民地化と冷戦の論理の相剋によって規定されてきた戦後東アジア地域秩序の構図を、近年公開された新資料を使って理解するうえでいくつかの視座を提供したい。換言すれば、戦後東アジアの国際規範でもあったサンフランシスコ講和条約に示された、いわゆる分離地域に対する法理とその精神が、日韓国交正常化交渉の場ではいかに議論されたのか、また、その帰結はイタリヤ講和条約などの他地域の例とどう異なったのかを比較検証することで、戦後東アジアにおける脱植民地化の論理を探り出したい。新資料とは、近年公開された日韓およびアメリカ政府の外交資料である。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

外交文書に接し、かかる読解力を高める。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく、進んで調べることができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅野豊美 編 『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編：請求権と歴史認識問題の起源』（東京：慈学社、2013年）

李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化I：東アジア冷戦編』（東京：法政大学出版局、2011年）

李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』（東京：法政大学出版局、2011年）

その他、授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介する。

東アジア国際政治研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロ（授業の趣旨および進め方、資料の紹介、報告順番の決定など）
- 第2回 帝国日本の解体と戦後日韓関係
- 第3回 サンフランシスコ講和条約の適用と日韓関係
- 第4回 2つの講和条約と日韓交渉における植民地主義
- 第5回 日韓会談における被害補償交渉の過程分析
- 第6回 日韓請求権交渉と「米国解釈」
- 第7回 日韓会談の政治決着と米国
- 第8回 韓国の対日導入資金の最大化と最適化
- 第9回 日韓国交正常化交渉における基本関係問題
- 第10回 戦後日本のポツダム宣言解釈と朝鮮の主権
- 第11回 日韓会談と文化財問題
- 第12回 日韓会談と在日朝鮮人
- 第13回 日韓会談と領土問題
- 第14回 未完の日韓会談：残された問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後学習が授業にどの程度反映されているか(70%)と期末レポート(30%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して適切に評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を適切に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で指示する文献を授業開始前までに熟読したうえで討論に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際政治、脱植民地化、冷戦、解放、分離、日韓国交正常化交渉、賠償、請求権、サンフランシスコ講和条約

日本社会史研究【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	日本の文化が形成される近世社会の歴史に関心を持ち、歴史を社会と生活文化の視点から捉えることができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	著書や論文などの文献にとどまらず、実際にくずし字史料を解読して実証的な研究を行うことができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	単に一国史の視点にとどまることなく、アジアやヨーロッパと比較する視点を持つことによって世界史の中に位置づけることができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			日本社会史研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

江戸～明治時代の対外関係の背後にある社会経済的背景を当時の史料から理解します。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

活字化された江戸～明治時代の史料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

なし。プリントやコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本都市生活史料集成』（学習研究社）
- 『日本庶民生活史料集成』（三一書房）
- 『日本近代思想体系12 対外観』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 江戸時代の対外関係
- 第3回 明治期の対外関係
- 第4回 江戸時代の史料購読①
- 第5回 江戸時代の史料購読②
- 第6回 江戸時代の史料購読③
- 第7回 江戸時代の史料購読④
- 第8回 江戸時代の史料購読⑤
- 第9回 明治時代の史料購読①
- 第10回 明治時代の史料購読②
- 第11回 明治時代の史料購読③
- 第12回 明治時代の史料購読④
- 第13回 明治時代の史料購読⑤
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

日本社会史研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後学習が授業にどの程度反映されているか（70％）と期末レポート（30％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布された史料を下読みして意味を調べておくこと。
事後に史料の読み方と意味をデータに入力して添付ファイルで担当教員に送ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代日本政治外交史研究【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	近代日本政治外交史に加え、広く世界に関する知識を修得している。現代世界が抱える問題について、歴史的な見地から議論を行なうことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	研究テーマに関して、先行研究を踏まえ、草書体史料などの一次史料を用いて議論を組み立てることができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	近代日本政治外交史に関する知識を国際社会で実践的に生かすことができる。歴史認識の多様性を理解し、適切な行動をとることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

近代日本政治外交史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史研究に必須の技術である、草書体（崩し字）の解読技術を習得してもらう。
また、関連する研究書を読み進めていく。

教科書 /Textbooks

こちらで準備するが、山県有朋・桂太郎・寺内正毅・児玉源太郎書翰の写真版を用いる。
『くずし字解読事典』（東京堂書店）は、各自購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『演習古文書選・近代編』上巻（吉川弘文館）、『逆引き広辞苑』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2回～14回は、毎回一通ずつ書翰を読んでいく。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%、読解能力の確認...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布したプリントを読んでくること。講義の内容を踏まえて、読めなかった箇所を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代文書

東南アジア近現代史研究 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	現代世界とのつながりのなかで、東南アジア近現代史を理解することができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	東南アジア近現代史に関する資料を収集・分析し、論理的な議論を組み立てることができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	東南アジア近現代史に関する理解を、現代世界における普遍的な課題への対応策として応用することができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			東南アジア近現代史研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。まず、19世紀から20世紀にかけて伝統的な港市国家が近代的な植民地国家に再編された過程をおさえる。そのうえで、その過程で展開した社会変容への対応、自立の模索、人やモノの越境などのテーマを中心的に取り上げ、受講生による報告・討論を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

東南アジア近現代史についての基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

東南アジア近現代史に関する資料を収集・分析し、論理的な議論を組み立てて問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

東南アジア近現代史に関する理解を、現代世界における普遍的な課題への対応策として自律的かつ主体的に応用することができる。

教科書 /Textbooks

弘末雅士『東南アジアの港市世界-地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。
杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年。
加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落（岩波講座東南アジア史第6巻）』岩波書店、2002年。
池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開（岩波講座東南アジア史第7巻）』岩波書店、2002年。
後藤乾一ほか編集『国民国家形成の時代（岩波講座東南アジア史第8巻）』、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東南アジア史学会40周年記念事業委員会編『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。
このほかにも授業中に別途指示する。

東南アジア近現代史研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 3回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(2) 第2章～第4章
- 4回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(3) 第5章～終章
- 5回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 6回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(2) 第2章、第3章
- 7回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(3) 第9章、第10章
- 8回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(1) 【開発】
- 9回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(2) 【貿易】
- 10回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(1) 【抵抗運動】
- 11回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(2) 【ナショナリズム】
- 12回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(3) 【革命】
- 13回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論(1) 【脱植民地化】
- 14回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論 【国家形成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 % レポート ... 50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストに基づく討論が授業の主な内容となります。テキストを事前に熟読しておくこと。授業の後には、テキストの内容を自分の研究にどのように活かすことができそうか考えてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

東南アジアについて基礎的な知識がない受講者は、担当者が学部（国際関係学科）で開講している「東南アジア研究概論」、「東南アジアの社会と歴史」、「東南アジアの政治と外交」などを受講のうえ本科目を受講するか、これらの科目を本科目と並行して受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア地域研究Ⅰ【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
/Year of School Entrance						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	現代国際社会における地域研究的アプローチの重要性を認識し、自ら運用できる知見と能力を修得する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	東南アジア研究全般にわたり、広く研究史を概観できる能力を修得する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	各研究テーマに即して、研究と実践との相関関係を把握する能力を修得する。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア地域研究Ⅰ

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東南アジアを対象としながら、地域研究的なアプローチのあり方を考え、その上で、自己の研究テーマへの方法論的還元を目指す。

到達目標

- 【高度な専門的知識・技能】
東南アジア地域についての基礎的な知識を修得している。
- 【高い問題解決能力と表現力】
東南アジア研究全般にわたり、広く研究史を概観して問題を解決する能力を身につけている。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
東南アジア研究全般にわたり、自律的かつ主体的に広く研究史を概観することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：地域研究の起源【起源】
- 第3回：地域研究と社会諸科学との関係【社会諸科学との関係】
- 第4回：地域研究における総合的認識【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像の把握【全体像の把握】
- 第6回：地域研究における文化主義的認識【文化主義的認識】
- 第7回：東南アジア研究の視点（風土・生態系）【風土・生態系】
- 第8回：東南アジア研究の視点（宗教・世界観）【宗教・世界観】
- 第9回：東南アジア研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第10回：東南アジア研究の視点（歴史）【歴史】
- 第11回：地域研究における総合的認識に関する文献の輪読・議論【総合的認識】
- 第12回：文化相対主義に関する文献の輪読・議論【文化相対主義】
- 第13回：ミャンマー人の世界観に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の世界観】
- 第14回：ミャンマー人の人間関係に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の人間関係】
- 第15回：まとめ

東南アジア地域研究I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50 %
報告内容 50 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究

アメリカ社会研究 【昼】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	アメリカ社会理解に必要な知識を修得する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する力を修得する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる力を修得する。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ社会研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のトランプ政権までの政治基調を見た後、そうした保守政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

D Pに基づく三つの到達目標。

《高度な専門的知識・技能》 アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》 自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》 受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治』(有斐閣アルマ 2017年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 現在の保守主義政治【保守主義】
- 第3回 トランプ政権の政治【保守主義】
- 第4回 オバマ政権の政治
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 大統領制・議会・裁判所
- 第8回 政策過程【世論】【利益政治】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1970年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【保守主義】
- 第14回 21世紀における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

アメリカ社会研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当箇所を学習しておくこと。事後に授業中の指示に従ってレポート等を作成すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

国際経済研究 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。グローバル社会が抱える諸問題を経済学の視点から理解する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	経済学の分析手法を身につけ、国際経済の現実問題に応用して議論を行うことができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	修得した知識・技能を生かし、国際的な視野に立って物事を考える。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			国際経済研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

大学院レベルの国際経済理論、とくにミクロ経済側面の国際貿易理論を学習する。貿易発生の仕組み、貿易政策の経済効果、海外直接投資の分析を中心に、国際経済の諸問題を経済学の視点から理解できることを目標としている。

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

① 国際経済に関する知識を養い、経済分析の手法を身につける。

② 現実の国際経済問題を経済学の視点から説明できる。

③ 国際経済の数理モデルを理解できる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、自ら進んで調べたり図表を作ったりして、高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

中西訓嗣著『国際経済学・国際貿易編』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木村福成著『国際経済学入門』（日本評論社）

伊藤元重・大山大道著『国際貿易』（岩波書店）

国際経済研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 比較優位 (1) 【分業の利益】 【貿易均衡】
- 3回 比較優位 (2) 【生産可能性フロンティア】 【貿易利益】
- 4回 比較優位 (3) 【オファーカーブ】 【貿易均衡】
- 5回 貿易自由化と所得分配【要素間所得分配】 【産業間所得分配】
- 6回 貿易政策分析 (1) 【関税】 【交易条件】
- 7回 貿易政策分析 (2) 【輸出補助金】 【数量制限】
- 8回 不完全競争と貿易 (1) 【国内独占】 【国際複占】
- 9回 不完全競争と貿易 (2) 【産業内貿易】 【製品差別化】 【独占的競争】
- 10回 生産要素の国際移動【海外直接投資】
- 11回 自由貿易と保護貿易【最適関税】 【幼稚産業保護】 【戦略的貿易政策】
- 12回 貿易交渉とWTO (1) 【関税交渉】 【貿易救済措置】
- 13回 貿易交渉とWTO (2) 【地域貿易協定】 【経済統合】
- 14回 経済成長と貿易【成長パターン】 【異時点間貿易】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (20%)、レポート (20%) と課題 (60%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学の知識が必要。
毎回授業後の復習も必須。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構研究 【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際機構の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	国際機構に関する先行研究を踏まえ、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	国際機構をめぐる実践的な問題に関心を持ち、適切な行動をとることができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			国際機構研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE513S	◎	○	△
科目名	中国研究概論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国の歴史・経済・政治の分野において、研究をすすめる上で必須の専門知識を習得し、中国研究の研究方法を理解し、特に研究文献と一次資料の取り扱い方、一次資料から自説を立論する手法を重んじ、問題解決力を身につける。

【高度な専門的知識・技能】

専門分野の研究に関する研究概況を理解し、研究に必要な語学力を有し、研究文献を収集できる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げ、自説としてまとめることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、論文の構成を思考できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回：全教員-授業ガイダンス
- 2 回：白石-中国経済を分析する視点 - 開発ミクロ経済学からのアプローチ
- 3 回：白石-中国経済への分析アプローチ (1) 論文を読む
- 4 回：白石-中国経済への分析アプローチ (2) 分析手法
- 5 回：白石-中国経済研究から得られる知見と展望
- 6 回：堀地-中国近代史の学術論文が完成するまで
- 7 回：堀地-中国近代史研究とインターネット利用
- 8 回：堀地-歴史資料を読解し分析する (1) 中文史料
- 9 回：堀地-歴史資料を読解し分析する (2) 日文史料
- 10 回：下野-中国政治を分析する視点
- 11 回：下野-中国政治への歴史的アプローチ (論文を読む)
- 12 回：下野-中国政治への政治学的アプローチ (論文を読む)
- 13 回：下野-資料の収集と読解
- 14 回：全教員-総合討論と学生研究報告 (1) 報告
- 15 回：全教員-総合討論と学生研究報告 (2) 総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価、授業中の報告等と学生研究報告で 100% 評価する。これらよりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

中国研究概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に教員が提示した課題を準備して出席すること、また授業後に教材を見直し論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

講義だけでなく、受講生による報告や実習等も行う。中国の歴史・政治・経済を専門とする学生の履修が望ましい。中国の文学・言語学・文化等を専門とする者には非常に難である。現代中国語と古典中国語の語学力が必要である。中国語未習者には、本科目の履修を薦めない。また、英語文献を取り扱うこともある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国近代史 一次資料 中国政治 中国経済 現代中国

東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE515S	◎	○	△
科目名	東南アジア研究概論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

近現代東南アジアの歴史、政治や社会について体系的に学び、当該地域に対する理解を深めることができるように指導する。（オムニバス方式 / 全15回）

1 田村慶子 / 5回

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治、社会、エスニシティ、国民統合に関する文献を読み、受講生との討論を中心に授業を進める。

2 伊野憲治 / 5回

東南アジア、特にミャンマーを中心に、民主化問題を扱い、政治と文化の関係性に注目しながら文献を選び、受講生との討論を行っていく。

3 篠崎香織 / 5回

植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。ナショナリズム、移民などのテーマを中心に文献を選び、受講生による報告・討論を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

東南アジア地域の歴史、政治や社会についての専門的知識や理解力を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

自ら先行研究を収集し、その問題点も発見しながら問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような自律的かつ主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

* これは学部3 - 4年生用の教科書であるので、大学院受講生の学力や知識によっては変わることもある。

弘末雅士『東南アジアの港市世界-地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。

加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落（岩波講座東南アジア史第6巻）』岩波書店、2002年。

池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開（岩波講座東南アジア史 第7巻）』岩波書店、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○白石隆『海の帝国-アジアをどう考えるか』中公新書、2000年。

○ベネディクト・アンダーソン（白石隆・白石さや訳）『想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行』NTT出版、1997年。

○東南アジア学会監修『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。

○伊野憲治『アウンサンスーチーの思想と行動』アジア女性交流・研究フォーラム、2001年。

○工藤年博編『ミャンマー政治の実像-軍政23年の功罪と新政権のゆくえ』アジア経済研究所、2012年。

東南アジア研究概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【田村担当】

- 第1回 教科書、参考文献、スケジュールなどの説明。
 第2回 『東南アジア現代政治入門』序章および第一章の輪読と議論
 第3回 『東南アジア現代政治入門』第二章および第三章の輪読と議論
 第4回 『東南アジア現代政治入門』第四章および第五章の輪読、議論
 第5回 『東南アジア現代政治入門』第六章の輪読および議論、まとめの議論

【伊野担当】

- 第6回 東南アジア諸国における民主化についてーミャンマーを中心にー（講義）
 第7回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（理論に関する邦語論文の輪読）
 第8回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（理論に関する英語論文の輪読）
 第9回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（ミャンマーに関する邦語文献の輪読）
 第10回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論（ミャンマーに関する英語文献の輪読）

【篠崎担当】

- 第11回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：序章～第4章
 第12回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：第5章～終章
 第13回 『植民地経済の繁栄と凋落』の輪読、議論。
 第14回 『植民地経済の繁栄と凋落』および『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。
 第15回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告や議論などの日常の授業への取り組み 70%
 レポート 30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前に文献を読むこと、事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

- 東南アジア、港市国家、植民地支配、ナショナリズム、華僑、華人
 ミャンマー民主化、アウンサンスーチー

アメリカ社会概論【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE521S	◎	○	△
科目名	アメリカ社会概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のD・トランプ政権までの政治基調を見た後、そうした政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種の・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

《高度な専門的知識・技能》 アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》 自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》 受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治』第3版(有斐閣アルマ 2017年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 21世紀後における保守主義政治の転回【保守主義】
- 第3回 トランプ政権のイデオロギー【D・トランプ】
- 第4回 オバマ政権の歴史的位相【B・オバマ】
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 アメリカ政治を動かす力【世論】【利益政治】
- 第8回 1980年代における国家論の再興【国家論】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1990年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【リベラル・コンセンサス】
- 第14回 1980年代における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

アメリカ社会概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

アメリカ人種関係概論 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE522S	◎	○	△
科目名	アメリカ人種関係概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

人種・民族の多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、史的・総合的に取り扱う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ合衆国の人種関係について、広く知識を習得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理し、一次史料を用いて議論を組み立てて表現し、問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも自律的かつ主体的に関心を持つことができる。

教科書 /Textbooks

Lawrence H. Fuchs, The American Kaleidoscope: Race, Ethnicity, and the Civic Culture, Hanover, NH: Wesleyan University Press, 1990.
Marc Dollinger, Quest for Inclusion: Jews and Liberalism in Modern America, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000.
Matthew Frye Jacobson, Whiteness of a Different Color: European Immigrants and the Alchemy of Race, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1998.
Murray Friedman, What Went Wrong?: The Creation & Collapse of the Black-Jewish Alliance, New York: Free Press, 1995.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. アメリカ人種関係論の概要
3. 新しい「社会史」の登場
4. アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
5. アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
6. 「白人性(ホワイトネス)」議論の登場
7. ホワイトネス各論1: M.ジェイコブソン
8. ホワイトネス各論2: D.ローディガー
9. ホワイトネス各論3: その他の主要な著作
10. 人種混淆の理論
11. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀前半
12. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀後半
13. その他のグループ間関係
14. 21世紀のアメリカの人種関係
15. まとめ

アメリカ人種関係概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%
によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係研究概論 【昼】

担当者名
/Instructor大平 剛 / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期

1学期

授業形態

講義

クラス

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
IRL510S	◎	○	△
科目名	国際関係研究概論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際関係研究の基礎となる国際政治および国際経済の理論を主に学びます。そのうえで専門科目を学ぶにあたっての基礎的な素養をしっかりと身につけます。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：大学院で国際関係を研究するにあたって、最低限必要とされる国際政治および国際経済の専門的知識を身につけ、それをもとに高度な文章を理解することができる。

高い問題解決能力と表現力：高度な内容に対して、学んだ知識をもとに議論することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：修得したアカデミックスキルに基づいて、高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、各回の授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 国際関係の成立と拡大：ウェストファリア体制（担当：阿部容子）
- 第3回 リアリズム：勢力均衡、覇権安定論
- 第4回 リベラリズム：機能主義、相互依存論、国際レジーム論
- 第5回 コンストラクティビズム：間主観性、規範の役割
- 第6回 国際政治におけるグローバルサウス（1）バンドン精神と非同盟運動（担当：大平 剛）
- 第7回 国際政治におけるグローバルサウス（2）資源ナショナリズムとNIEO
- 第8回 国際政治におけるグローバルサウス（3）新自由主義と構造調整政策
- 第9回 国際政治におけるグローバルサウス（4）新興国の台頭と南南協力
- 第10回 国際貿易の経済分析（1）比較優位と分業の利益（担当：魏 芳）
- 第11回 国際貿易の経済分析（2）貿易政策の効果と保護貿易
- 第12回 国際貿易の経済分析（3）貿易政策の政治経済学
- 第13回 紛争と安全保障（1）戦争の形態変化、軍事制度の発展（担当：中野博文）
- 第14回 紛争と安全保障（2）国際法の発展、帝国と覇権
- 第15回 紛争と安全保障（3）戦略、同盟、集団安全保障

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%（20%×4本）によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に各回で学ぶ内容について、予備知識を文献やインターネットを通して得ておくこと。事後学習としては、レポート課題が出されるので、テーマに則した文献や資料を収集してレポートを書くこと。

履修上の注意 /Remarks

国際関係研究概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、東アジア専攻の4名の教員によってオムニバス形式で行われます。

キーワード /Keywords

中国社会史研究【昼】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期

2学期

/Semester

授業形態

演習

/Class Format

クラス

/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS522S	○	◎	△
科目名	中国社会史研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本科目は漢族を中心とする中国社会が如何なる人的結合を核として構成され、それがどのような歴史的変遷を経て今日に到るのかを考察する。重点的には、中華人民共和国の土地改革によって変革された旧中国社会(明清時代)と現在の社会主義体制下の中国社会とを歴史的に対照させ、また日本伝統社会と比較しながら、中国社会の構成原理と特質を講じてゆきたい。

【高度な専門的知識・技能】

専門分野の研究文献を判読し知識を獲得することができる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げ、自説を形成できる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、課題を解決できる。

教科書 /Textbooks

・ 上田信『海と帝国』（講談社、2005年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 井上徹等編『東アジア近世都市における社会的結合』（清文堂、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスと文献の配布
- 第2回 中国という社会空間
- 第3回 明朝の成立
- 第4回 明朝統治の特質
- 第5回 交易の発展と社会変容
- 第6回 商人社会
- 第7回 社会秩序の変容
- 第8回 北辺貿易と清朝の成立
- 第9回 産業の発展
- 第10回 伝統中国の完成
- 第11回 伝統中国社会と環境問題
- 第12回 伝統中国社会と近世日本社会
- 第13回 土地改革と伝統中国社会の解体
- 第14回 改革開放下中国社会の構造
- 第15回 まとめ（総合的考察-伝統中国社会と現代中国社会）

成績評価の方法 /Assessment Method

報告（60％）・討論（40％）により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告の準備を入念に行うこと、事後に論点整理と課題を明確にすること。

履修上の注意 /Remarks

中国社会史研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
キーワード /Keywords
明朝、交易、商人、北辺貿易、清朝、伝統社会、土地改革、改革開放

現代中国政治研究【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE516S	○	◎	△
科目名	現代中国政治研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国の歴史、政治体制、社会について広く知識を修得し、この地域の諸問題について学術的な観点から議論できるようになることを授業の目的とする。詳細は受講生の研究テーマとの関連で決める。必要に応じて台湾・香港等に関する文献を取り上げることもある。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

中国政治とそれに関連する事項について広く知識を修得し、専門的な見地から議論できる。

《高い問題解決能力と表現力》

中国政治とそれに関連する事項について先行研究を収集できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

中国政治とそれに関連する事項について修得した知識・技能を生かして、広い視野から国際社会について考えることができる。

教科書 /Textbooks

下記を予定しているが、受講生の研究テーマに応じて変更することがある。

菱田雅晴・鈴木隆『超大国・中国のゆくえ3 共産党とガバナンス』東京大学出版会、2016年

下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年（○）

山本真『近現代中国における社会と国家 - 福建省での革命、行政の制度化、戦時動員』創文社、2016年

川島真『中国のフロンティア-揺れ動く境界から考える』岩波新書、2017年（○）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマによって別途紹介するが、視点の違いによって下記のような文献がある（一例）。

天児慧『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動 - 毛沢東vs.鄧小平』講談社、2004年（○）

加茂具樹他編著『中国改革開放への転換―「一九七八年」を越えて』慶應義塾大学出版会、2011年（○）

毛里和子『現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年（○）

田原史起『中国農村の権力構造-建国初期のエリートの再編』御茶の水書房、2004年（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※受講生の研究テーマに応じて、一部変更することがある。また、各回において、関連する論文を合わせて読み、議論することもある。

- 1回 イントロダクション
- 2回 菱田『超大国・中国のゆくえ3 共産党とガバナンス』序章・第1章
- 3回 “ ” 第2章
- 4回 “ ” 第3章
- 5回 “ ” 第4章
- 6回 “ ” 第5章
- 7回 “ ” 第6章・終章
- 8回 下野『中国外資導入の政治過程-対外開放のキーストーン』前半
- 9回 “ ” 後半
- 10回 山本『近現代中国における社会と国家』序章・第1～5章
- 11回 “ ” 第6・7章
- 12回 “ ” 第8～11章・終章
- 13回 川島『中国のフロンティア-揺れ動く境界から考える』前半
- 14回 “ ” 後半
- 15回 まとめ

現代中国政治研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・発表50%、課題提出物50%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題文献をしっかりと読み込んでレジユメを作成し、授業に臨むこと。
授業の議論について必ず振り返りを行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

現代中国の近現代史・政治・経済・社会などについて基礎的な知識を備えていることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際政治研究【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE517S	○	◎	△
科目名	東アジア国際政治研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、日韓国交正常化交渉を切り口として、脱植民地化と冷戦の論理の相剋によって規定されてきた戦後東アジア地域秩序の構図を、近年公開された新資料を使って理解するうえでいくつかの視座を提供したい。換言すれば、戦後東アジアの国際規範でもあったサンフランシスコ講和条約に示された、いわゆる分離地域に対する法理とその精神が、日韓国交正常化交渉の場ではいかに議論されたのか、また、その帰結はイタリヤ講和条約などの他地域の例とどう異なったのかを比較検証することで、戦後東アジアにおける脱植民地化の論理を探り出したい。新資料とは、近年公開された日韓およびアメリカ政府の外交資料である。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

外交文書に接し、かかる読解力を高める。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく、進んで調べることができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅野豊美 編 『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編：請求権と歴史認識問題の起源』（東京：慈学社、2013年）
李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化I：東アジア冷戦編』（東京：法政大学出版局、2011年）
李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』（東京：法政大学出版局、2011年）
その他、授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロ（授業の趣旨および進め方、資料の紹介、報告順番の決定など）
- 第2回 帝国日本の解体と戦後日韓関係
- 第3回 サンフランシスコ講和条約の適用と日韓関係
- 第4回 2つの講和条約と日韓交渉における植民地主義
- 第5回 日韓会談における被害補償交渉の過程分析
- 第6回 日韓請求権交渉と「米国解釈」
- 第7回 日韓会談の政治決着と米国
- 第8回 韓国の対日導入資金の最大化と最適化
- 第9回 日韓国交正常化交渉における基本関係問題
- 第10回 戦後日本のボツダム宣言解釈と朝鮮の主権
- 第11回 日韓会談と文化財問題
- 第12回 日韓会談と在日朝鮮人
- 第13回 日韓会談と領土問題
- 第14回 未完の日韓会談：残された問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後学習が授業にどの程度反映されているか(70%)と期末レポート(30%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して適切に評価を行う。

東アジア国際政治研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を適切に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で指示する文献を授業開始前までに熟読したうえで討論に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際政治、脱植民地化、冷戦、解放、分離、日韓国交正常化交渉、賠償、請求権、サンフランシスコ講和条約

日本社会史研究【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS510S	○	◎	△
科目名	日本社会史研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

江戸～明治時代の対外関係の背後にある社会経済的背景を当時の史料から理解します。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

活字化された江戸～明治時代の史料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

なし。プリントやコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本都市生活史料集成』（学習研究社）
- 『日本庶民生活史料集成』（三一書房）
- 『日本近代思想体系12 対外観』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 江戸時代の対外関係
- 第3回 明治期の対外関係
- 第4回 江戸時代の史料購読①
- 第5回 江戸時代の史料購読②
- 第6回 江戸時代の史料購読③
- 第7回 江戸時代の史料購読④
- 第8回 江戸時代の史料購読⑤
- 第9回 明治時代の史料購読①
- 第10回 明治時代の史料購読②
- 第11回 明治時代の史料購読③
- 第12回 明治時代の史料購読④
- 第13回 明治時代の史料購読⑤
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後学習が授業にどの程度反映されているか（70％）と期末レポート（30％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布された史料を下読みして意味を調べておくこと。

事後に史料の読み方と意味をデータに入力して添付ファイルで担当教員に送ること。

日本社会史研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks
担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
キーワード /Keywords

近代日本政治外交史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS511S	○	◎	△
科目名	近代日本政治外交史研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史研究に必須の技術である、草書体（崩し字）の解読技術を習得してもらう。
また、関連する研究書を読み進めていく。

教科書 /Textbooks

こちらで準備するが、山県有朋・桂太郎・寺内正毅・児玉源太郎書翰の写真版を用いる。
『くずし字解読事典』（東京堂書店）は、各自購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『演習古文書選・近代編』上巻（吉川弘文館）、『逆引き広辞苑』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2回～14回は、毎回一通ずつ書翰を読んでいく。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%、読解能力の確認...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布したプリントを読んでくること。講義の内容を踏まえて、読めなかった箇所を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代文書

東南アジア近現代史研究 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS523S	○	◎	△
科目名	東南アジア近現代史研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。まず、19世紀から20世紀にかけて伝統的な港市国家が近代的な植民地国家に再編された過程をおさえる。そのうえで、その過程で展開した社会変容への対応、自立の模索、人やモノの越境などのテーマを中心的に取り上げ、受講生による報告・討論を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

東南アジア近現代史についての基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

東南アジア近現代史に関する資料を収集・分析し、論理的な議論を組み立てて問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

東南アジア近現代史に関する理解を、現代世界における普遍的な課題への対応策として自律的かつ主体的に応用することができる。

教科書 /Textbooks

弘末雅士『東南アジアの港市世界—地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。
杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年。
加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落（岩波講座東南アジア史第6巻）』岩波書店、2002年。
池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開（岩波講座東南アジア史第7巻）』岩波書店、2002年。
後藤乾一ほか編集『国民国家形成の時代（岩波講座東南アジア史第8巻）』、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東南アジア史学会40周年記念事業委員会編『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。
このほかにも授業中に別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 3回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(2) 第2章～第4章
- 4回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(3) 第5章～終章
- 5回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 6回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(2) 第2章、第3章
- 7回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(3) 第9章、第10章
- 8回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(1) 【開発】
- 9回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(2) 【貿易】
- 10回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(1) 【抵抗運動】
- 11回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(2) 【ナショナリズム】
- 12回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(3) 【革命】
- 13回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論(1) 【脱植民地化】
- 14回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論【国家形成】
- 15回 まとめ

東南アジア近現代史研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 % レポート ... 50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストに基づく討論が授業の主な内容となります。テキストを事前に熟読しておくこと。授業の後には、テキストの内容を自分の研究にどのように活かすことができそうか考えてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

東南アジアについて基礎的な知識がない受講者は、担当者が学部（国際関係学科）で開講している「東南アジア研究概論」、「東南アジアの社会と歴史」、「東南アジアの政治と外交」などを受講のうえ本科目を受講するか、これらの科目を本科目と並行して受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア地域研究Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE519S	○	◎	△
科目名	東南アジア地域研究Ⅰ		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

東南アジアを対象としながら、地域研究的なアプローチのあり方を考え、その上で、自己の研究テーマへの方法論的還元を目指す。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

東南アジア地域についての基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

東南アジア研究全般にわたり、広く研究史を概観して問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

東南アジア研究全般にわたり、自律的かつ主体的に広く研究史を概観することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
第2回：地域研究の起源【起源】
第3回：地域研究と社会諸科学との関係【社会諸科学との関係】
第4回：地域研究における総合的認識【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像の把握【全体像の把握】
第6回：地域研究における文化主義的認識【文化主義的認識】
第7回：東南アジア研究の視点（風土・生態系）【風土・生態系】
第8回：東南アジア研究の視点（宗教・世界観）【宗教・世界観】
第9回：東南アジア研究の視点（人間関係）【人間関係】
第10回：東南アジア研究の視点（歴史）【歴史】
第11回：地域研究における総合的認識に関する文献の輪読・議論【総合的認識】
第12回：文化相対主義に関する文献の輪読・議論【文化相対主義】
第13回：ミャンマー人の世界観に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の世界観】
第14回：ミャンマー人の人間関係に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の人間関係】
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%
報告内容50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

東南アジア地域研究I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究

アメリカ社会研究【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE523S	○	◎	△
科目名	アメリカ社会研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のトランプ政権までの政治基調を見た後、そうした保守政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

DPに基づく三つの到達目標。

《高度な専門的知識・技能》アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治』（有斐閣アルマ 2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 現在の保守主義政治【保守主義】
- 第3回 トランプ政権の政治【保守主義】
- 第4回 オバマ政権の政治
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 大統領制・議会・裁判所
- 第8回 政策過程【世論】【利益政治】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1970年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【保守主義】
- 第14回 21世紀における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 … 70 % レポート … 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当箇所を学習しておくこと。事後に授業中の指示に従ってレポート等を作成すること。

アメリカ社会研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

国際経済研究 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN545S	○	◎	△
科目名	国際経済研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

大学院レベルの国際経済理論、とくにミクロ経済側面の国際貿易理論を学習する。貿易発生の仕組み、貿易政策の経済効果、海外直接投資の分析を中心に、国際経済の諸問題を経済学の視点から理解できることを目標としている。

DPに基づく3つの到達目標

<高度な専門的知識・技能>

- ①国際経済に関する知識を養い、経済分析の手法を身につける。
- ②現実の国際経済問題を経済学の視点から説明できる。
- ③国際経済の数理モデルを理解できる。

<高い問題解決能力と表現力>

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

<高い倫理観に基づいた自律的行動力>

受け身の学習ではなく、自ら進んで調べたり図表を作ったりして、高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

中西訓嗣著『国際経済学・国際貿易編』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木村福成著『国際経済学入門』（日本評論社）
伊藤元重・大山道広著『国際貿易』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 比較優位（1）【分業の利益】【貿易均衡】
- 3回 比較優位（2）【生産可能性フロンティア】【貿易利益】
- 4回 比較優位（3）【オファーカーブ】【貿易均衡】
- 5回 貿易自由化と所得分配【要素間所得分配】【産業間所得分配】
- 6回 貿易政策分析（1）【関税】【交易条件】
- 7回 貿易政策分析（2）【輸出補助金】【数量制限】
- 8回 不完全競争と貿易（1）【国内独占】【国際複占】
- 9回 不完全競争と貿易（2）【産業内貿易】【製品差別化】【独占的競争】
- 10回 生産要素の国際移動【海外直接投資】
- 11回 自由貿易と保護貿易【最適関税】【幼稚産業保護】【戦略的貿易政策】
- 12回 貿易交渉とWTO（1）【関税交渉】【貿易救済措置】
- 13回 貿易交渉とWTO（2）【地域貿易協定】【経済統合】
- 14回 経済成長と貿易【成長パターン】【異時点間貿易】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（20％）、レポート（20％）と課題（60％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

国際経済研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学の知識が必要。
毎回授業後の復習も必須。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構研究 【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
IRL512S	○	◎	△
科目名	国際機構研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会史概論 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を修得する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を身につける。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ社会史概論	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

17世紀から現代までのアメリカ社会を、「自由」をキーワードに政治、経済、文化、思想など広範な視点から論じる授業を通して、アメリカ史に関する高度な専門的知識を修得させる。それを踏まえて、現代アメリカ社会における政治的・社会的・経済的な問題の根底にあるものについて考え、問題解決に向けた自分なりの意見を的確に表現する力を養成する。講義に際しては、適宜アメリカ史に関する基本文献や一次史料等を用いる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究により問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

自律的な態度でアメリカ社会の諸問題を主体的に発見・分析することができる。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

アメリカ社会史概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2 回 南北戦争までの時代：植民地時代～共和国形成期
- 3 回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4 回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5 回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6 回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7 回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8 回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9 回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10 回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11 回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12 回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13 回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14 回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（20％）、授業への貢献度（20％）、授業中の報告内容（60％）により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読み込み、事後にノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を積極的に読むことを薦める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域概論 【夜】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	イギリスに関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行なうことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	イギリスに関する先行研究および一次資料の収集・整理ができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			イギリス地域概論	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近代イギリスについて、文化の多様性を中心に切り上げ、現代イギリス社会を構成している諸要因を通時的に検討し、異文化理解の達成を図る。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた文献を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

文献の内容を正しく理解し、それを口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めることができる。

教科書 /Textbooks

井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 はじめに
- 2 回 宗教
- 3 回 政治文化
- 4 回 労働
- 5 回 福祉
- 6 回 教育
- 7 回 食文化
- 8 回 慣習
- 9 回 音楽
- 10 回 地域
- 11 回 女性
- 12 回 総力戦
- 13 回 死者追悼
- 14 回 帝国
- 15 回 若者文化

イギリス地域概論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 (100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。
授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国経済研究【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	中国、及び途上国、新興国（地域）経済理解に必要な基礎的・専門的知識を習得する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国、及び途上国、新興国（地域）経済に対する政策提言を可能にする実証的分析・研究が行える。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	習得した知識や技能を適切かつ有意義に生かすこと、研究に対する誠実な姿勢、的確な視点を持つ。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			現代中国経済研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国経済や途上国、新興国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。この過程で中国経済研究等に関するジャーナルの輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能

中国をはじめとする新興国に関する知識、実証研究に必要なスキルを身に着ける。

高い問題解決能力と表現力

先行研究への貢献、実証分析に基づく政策提言を行う力を養う。

高い倫理観に基づいた自律的行動力

受け身の形ではなく、主体的に先行研究を収集し、自らの問題意識と分析のアイデアを実証的に検証する力を養う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年

岩崎一郎 『比較経済論講義』日本評論社 2018年

白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年

伊藤公一郎 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年

田中隆一 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』有斐閣 2018年

矢野剛 『中国の企業間信用 経済発展とオルタナティブ金融』京都大学出版会 2015年

この他講義の際に紹介する。

現代中国経済研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 中国経済、新興国経済の分析視点(1) SNA
 - 3回 中国経済、新興国経済の分析視点(2) 企業、金融
 - 4回 中国経済、新興国経済の分析視点(3) 政府
 - 5回 中国経済の近年の動向(1) SNA、経済発展、経済政策
 - 6回 中国経済の近年の動向(2) 投資、資本移動
 - 7回 実証分析の基本的考え方(1) 相関関係 因果関係
 - 8回 実証分析の基本的考え方(2) 因果関係 variable of the most interesting
 - 9回 実証分析の基本的考え方(3) variable of the most interesting コントロール変数
 - 10回 実証分析の実践(1) 仮説の設定
 - 11回 実証分析の実践(2) 仮説の検証
 - 12回 実証分析の実践(3) 政策提言
 - 13回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(1) 経済政策、経済成長
 - 14回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(2) 経済成長、市場経済
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成、報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：ミクロ経済学、統計学、計量経済学の基本的知識を抑えておくこと。

事後学習：文献(論文)の講読を通じて得られた知見やスキルを、各自の研究に生かせるように実践的な応用を試みること。

履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ)経済学、統計学及び計量経済学等の学部レベルの知識を習得していることがのぞましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治思想研究【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	日本、中国、朝鮮・韓国の伝統と近代の政治思想史を読み直し、東アジア三国の思想や文化に関する様々な専門知識を修得する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を生かせるよう実践的な問題や課題に関心をもち、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			東アジア政治思想研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、中国、朝鮮）の儒学と朱子学を比較研究する。それによって、三国の思想、思考様式などを比較考察する。とくに日本の江戸時代の徂徠学を中心として、その特質を原文講読しつつ分析考察したい。

DPに基づく三つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

活字化された江戸時代の資料や関連資料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的な行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり報告レジュメを作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

小倉紀蔵『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012） 5500円
『荻生徂徠全集』のなかの原文資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小倉紀蔵『創造する東アジア 文明・文化・ニヒリズム』（春秋社、2011）
○与那覇潤『中国化する日本』（文芸春秋、2011）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
第2回 第1章 【朱子学】 【日本近代】
第3回 第2章 【儒教】 【主体】
第4回 第3章 【理】 【論理】
第5回 第4章 【朱子学的思惟】 【階層性】
第6回 第5章 【垂直性】 【水平性】
第7回 第6章 【こころ】 【ニヒリズム】
第8回 第8章 【国体論】 【靈魂】
第9回 第9章 【元田永孚】 【教育勅語】
第10回 第10章 【福沢諭吉】 【朱子学的半身】
第11回 第11章 【丸山眞男】 【朱子学的半身】
第12回 第12章 【主体的韓国人】 【朴鍾鴻】
第13回 第13章 【司馬遼太郎】 【近代観】 【朝鮮観】
第14回 第14章 【天皇】 【カリスマ】 【三島由紀夫】
第15回 まとめ

* 第3回以降の授業では『荻生徂徠全集』の原文資料をとりあげ、講読していく。

東アジア政治思想研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告レジュメと発表、討論（70％）と期末レポート（30％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の予習、原文資料の講読、報告と討論の準備。事後の復習、関連文献の自主学習

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。関連文献を多く読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの比較思想研究を通して、東アジアの過去、現在、未来を思想的に考えよう。

キーワード /Keywords

アジアから考える視点、文明論的な視点、比較思想

現代韓国経済研究 【夜】

担当者名 柳 学洙 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	現代の韓国経済を学ぶことによって、東アジア経済発展のダイナズムと脆さを理解する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	現代の韓国経済についての先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代の韓国経済を客観的に捉えるようになることで、隣国との経済関係がどうあるべきか考察してみる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			現代韓国経済研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

大韓民国は、朝鮮半島が1945年に日本の植民地支配から解放された後、半島の南側に成立した国家であり、「東アジアの奇跡」とも称された急速な経済発展を遂げた国である。日本と韓国は隣国として、政治・経済・文化といった様々な側面で密接な関わりを持っており、韓国経済の動向を知ることは、日本経済の将来を見通すうえでも有益な知見をもたらす。

この授業では、韓国経済の発展をもたらした諸要因について、歴史的な視点から考察・検討するための基本的知識を得ることに重点をおいた講義を行う。そのうえで、現代韓国経済が抱える課題と将来の見通しについて分析する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

現代の韓国経済に関する基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代の韓国経済についての先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立て表現することによって問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現代の韓国経済を客観的に捉えるようになることで、隣国との経済関係がどうあるべきか自律的かつ主体的に考察することができる。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三重野文春 / 深川由紀子編 (2017) 『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房
- 原朗 / 宣在源編 (2013) 『韓国経済発展への経路 - 解放・戦争・復興』日本経済評論社
- 安倍誠編 (2017) 『低成長時代を迎えた韓国』アジア経済研究所
- 廣田功 / 加賀美充洋 (2014) 『東アジアにおける経済統合と共同体』日本経済評論社
- ジェトロ・アジア経済研究所 『アジア動向年報』各年版

現代韓国経済研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 植民地時代の朝鮮半島
- 第2回 解放後、米軍政下の経済状況
- 第3回 朝鮮戦争の影響
- 第4回 李承晩政権と韓国経済
- 第5回 朴正熙政権の経済政策
- 第6回 輸出志向経済への転換
- 第7回 重工業化政策と財閥企業の成長
- 第8回 韓国経済の高度成長とその特徴
- 第9回 アジア金融危機 - 何が起こったのか
- 第10回 IMF支援と金大中政権の構造改革
- 第11回 経済のV字回復と格差拡大
- 第12回 現代韓国の産業構造
- 第13回 現代韓国の企業
- 第14回 若年層の就業機会と格差の固定化
- 第15回 少子化問題と韓国経済の未来

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー：30%，期末試験（論述問題）：70%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、ジェトロのHPにある「国・地域別に見る」(<https://www.jetro.go.jp/world/asia/>)のコーナーで、韓国の基本データや最近の経済ニュースを確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意 /Remarks

とくにありませんが、授業を受ける前に、韓国の本や映画、芸能文化などに触れてみて、これから学ぶ地域のイメージをふくらませておけば、授業がより楽しくなると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

かつて「近くて遠い国」と言われた韓国も、今やすっかり「近くて近い国」になった感があります。しかし民間交流が盛んになった一方で、政治的な摩擦が起きることも少なくありません。また、よく知っているようでありながら、いざ深く調べてみようと思うと、日本語でアクセスできる情報が意外と少ないというのも韓国特有の難しさかもしれません。この授業では、韓国を知るためのリサーチ方法を伝えるという点にも重点をおきたいと思っています。

キーワード /Keywords

韓国経済，輸出志向工業化，少子化問題，権威主義体制，格差問題，分断体制

東南アジア地域研究Ⅱ【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	東南アジア地域の近現代史、独立後の政治や社会の変容に関する基礎的な知識を習得する。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	広く先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような行動力を育成する。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			東南アジア地域研究Ⅱ	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治・社会・エスニシティ（華僑、華人問題）、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習、報告も行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。

課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることができるよう指導する。

DPに基づく3つの到達目標

【高度な専門知識・技能】近現代東南アジアや国際関係の資料を読むことができる。

【高い問題解決と表現力】自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】受け身の学習ではなく、進んで調べたり、図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：

岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。

Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年

* 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。

○アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。

* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。

○清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2018年。

東南アジア地域研究Ⅱ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	テキストとスケジュールの相談、説明
第2回	『アジア政治とは何か』序章を輪読、議論する
第3回	『アジア政治とは何か』開発体制を輪読、議論する
第4回	『アジア政治とは何か』各人が開発体制のいくつかの事例を紹介、議論する
第5回	『アジア政治とは何か』民主主義を輪読、議論する
第6回	アジア政治の課題について議論する
第7回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasの序章を輪読、議論する
第8回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのマレーシアを輪読、議論する
第9回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのインドネシアを輪読、議論する
第10回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのフィリピンを輪読、議論する
第11回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのタイを輪読、議論する
第12回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのベトナムを輪読、議論する
第13回	華人の東南アジアへの移住の歴史と国民国家建設における役割について議論する
第14回	これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
第15回	補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%
これらによって、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかと判断して行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を精読すること。事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。
アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことのない場合は、外国語学部国際関係学科「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講するなど、自主的に積極的に学習して欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

アメリカ社会史研究 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を深める。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を深める。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ社会史研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

南北戦争後から20世紀前半のアメリカ合衆国の歴史・社会に関する講義・文献講読を通じて、各時代の主要なテーマを考える。また、授業を通して修得した知識を踏まえて、現代アメリカ社会における政治的・社会的・経済的な問題の根底にあるものについて考え、問題解決に向けた自分なりの意見を的確に表現する力を養成する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究により問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アメリカ社会の諸問題を自律的かつ主体的に発見・分析することができる。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

アメリカ社会史研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2 回 再建期と金びか時代：政治再編
- 3 回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4 回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5 回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6 回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7 回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8 回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9 回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10 回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11 回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12 回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13 回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14 回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（20％）、授業への貢献度（20％）、授業中の報告内容（60％）により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず、指示された参考文献や資料をしっかりと読み込む。また授業後には、授業内容について整理する。

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を、積極的に読むことを薦める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ人種関係研究 【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	アメリカ合衆国の人種関係について広く知識を修得し、それに基づいて、現代世界が抱える問題について専門的な見地から議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理することができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ人種関係研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人種・民族の多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ合衆国の人種関係について広く知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理することによって問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも自律的かつ主体的に関心を持つことができる。

教科書 /Textbooks

Gary Gerstle, American Crucible: Race and Nation in the Twentieth Century, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001.
David Roediger, The Wages of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991].
David Biale, Michael Galchinsky, and Susannah Heschel, Insider/Outsider: American Jews and Multiculturalism, Berkeley: University of California Press, 1998.
Karen Brodtkin, How Jews Became White Folks and What That Says About Race in America, New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1999.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

アメリカ人種関係研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション
- 2 . 優生学の登場
- 3 . 「新移民」と人種
- 4 . ホワイト・エスニックとは
- 5 . 反ユダヤ主義の系譜
- 6 . 戦争と人種問題 1 : アフリカ系アメリカ人
- 7 . 戦争と人種問題 2 : ホロコーストの記憶と反省
- 8 . 戦争と人種問題 3 : 日系人と強制収容
- 9 . 公民権運動をめぐる議論 1 : 1950年代
- 10 . 公民権運動をめぐる議論 2 : 1960年代前半
- 11 . 公民権運動をめぐる議論 3 : 1960年代後半
- 12 . ポスト公民権運動期の人種関係
- 13 . 文化多元主義と多文化主義
- 14 . 今日のアメリカの人種関係とその展望
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%
によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域研究 【夜】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	イギリスに関する専門的な知識を修得し、それに基づいて高度な議論を行なうことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	イギリスに関する先行研究を的確に整理し、一次資料に基づく議論を組み立てることができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	修得した知識・技能に基づき、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			イギリス地域研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

イギリス社会と文化に関する英語文献を講読し、イギリスに関する理解を深める。最初に連合王国の周辺的な地域に関する文献を読み、続いてイギリスを含む近代社会の成り立ちを社会思想的に分析した著作を中心に議論を展開する。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた文献を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

文献の内容を正しく理解し、それを口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めることができる。

教科書 /Textbooks

S. Bassnett, Studying British Culture
成瀬治『近代市民社会の成立』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

イギリス地域研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 はじめに
- 2 回 地域・文化研究の方法論
- 3 回 スコットランドの再定義
- 4 回 カムリカウェールズか
- 5 回 北アイルランド研究の現状
- 6 回 1914年までのイギリス: 変化と継続性
- 7 回 イギリスにおける階級とジェンダー
- 8 回 イギリス人の「生と死」
- 9 回 イギリスの家族構造
- 10 回 イギリスにおける「プロパティ」概念
- 11 回 イギリス社会における労働
- 12 回 イギリス社会における宗教
- 13 回 社会と国家
- 14 回 社会と社会理論
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。
授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際協力に関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	国際協力に関する資料の収集と分析ができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	国際協力に関して修得した知識と技能を生かして、広い視野に立って適切な行動を取ることができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			国際協力研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、新興援助国である中国や韓国が既存の国際開発レジームにとってどのような存在であるのかに焦点をあて、国際開発協力の最新の動向を理解します。とりわけ21世紀に入って以降の中国によるアフリカ援助は、アフリカの国々の経済成長を助けていると評価されるものの、その中国モデルは既存の援助ルールとは一線を画しています。そのことが従来のドナー国とのあいだに摩擦を生み出しており、今後の国際援助レジームの行く末を不透明にする原因となっています。授業では国際開発協力をめぐる国際政治にも焦点を当ててこの問題について考察します。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：国際開発協力研究の最先端の知識を身につけ、現在の状況を把握することができる。

高い問題解決能力と表現力：修得した知識をもとに、現在の状況が抱える課題について議論することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：修得したアカデミックスキルを駆使して、高度な文章によって学んだ内容をまとめることができる。

教科書 /Textbooks

Ian Watson, Foreign Aid and Emerging Powers, Routledge, 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

エマ・モーズリー『国際開発援助の変貌と新興国の台頭』明石書店、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 新興国の台頭と開発援助
- 第3回 ディスカッション
- 第4回 IR理論から考える新興国と地政学
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 アフリカにおけるアジアの援助国
- 第7回 ディスカッション
- 第8回 アジアにおける政府開発援助
- 第9回 ディスカッション
- 第10回 新興国、アジアの対外援助、地政学
- 第11回 ディスカッション
- 第12回 援助効果の議論と官民連携
- 第13回 ディスカッション
- 第14回 開発効果の議論
- 第15回 まとめ

国際協力研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論への貢献度 (100%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献の該当ページをしっかりと読み込んでおくこと。事後学習としては翌週にディスカッションがあるので、学んだ内容を復習して、何を議論したいのかの論点を明確にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

また、開発援助の歴史と仕組みについて十分な知識が無ければ、学部の『国際協力論I』も併せて受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障研究 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際関係における安全保障上の問題について知識を習得し、それに基づいて、専門的な見地から議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	安全保障に関する先行研究を収集し的確に整理することができる。一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	安全保障に関する具体的、実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として広い視野に立って適切な行動をとることができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			安全保障研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

< DPに基づく3つの到達目標 >

①高い問題解決能力と表現力

大学院修士課程レベルでの社会科学的な問題解決能力と口頭・文章での表現力を身に着ける。

②高度な専門的知識・技能

大学院修士課程レベルでの政治学的、哲学的知識・技能を修得する。

③高い倫理観に基づいた自律的行動力

価値をめぐる問題に対し客観的な視座から論理的に自ら思考するための能力を身に着ける。

教科書 /Textbooks

未定だが、メインとなる書籍は購入すること（例えば、下記のスケジュール例であれば、Just and Unjust Warがメインとなる。13回、14回、15回に用いる論文は事前にコピーを配布する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

正戦理論については、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけではなく、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が不可欠になるかもしれない。

安全保障研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式を取り、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジюмеを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

※履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

第1回 ガイダンス

戦争倫理（正戦理論）関係の場合、以下のようなスケジュールを予定している。概ね、各回につき、20～30ページ程度の英語論文を2本読み、受講者には15～20分間の要旨報告×2本分（日本語）、質疑応答（日本語）をしてもらう。

例えば、次のような進行を想定している。（11回までは、Michael Walzer, Just and Unjust Wars; A Moral Argument with Historical Illustrations 4th Edn., Basic Books, 2008, を2章ずつ講読、各回ともに、15～20分×2章＝30～40分の要旨報告と質疑応答をしてもらう）

第2回 ch.1 Against Realism, ch.2 The Crime of War

第3回 ch.3 The Rules of War, ch.4 Law and Order in the International Society

第4回 ch.5 Anticipations, ch.6. Interventions

第5回 ch.7 War's Ends and the Importance of Winning, ch.8 War's Means and the Importance of Fighting Well

第6回 ch.9 Noncombatant Immunity and Military Necessity, ch.10 War against Civilians

第7回 ch.11 Guerrilla War, ch.12 Terrorism

第8回 ch.13 Reprisals, ch.14 Winning and Fighting Well

第9回 ch.15. Aggression and Neutrality, ch.16 Supreme Emergency

第10回 ch.17 Nuclear Deterrence, ch.18 The Crime of Aggression

第11回 ch.19 War Crimes, Soldiers and their Officers

第12回 Just and Unjust Warの総括、および、小レポートの要旨報告

第13回 Thomas Nagel, "War and Massacre," in T.Nagel et.al., eds., War and Moral Responsibility, Princeton UP, 1974.

第14回 Richard Norman, Killing in Self-defence, in Richard Norman, Ethics, Killing and War, Cambridge UP, 1995, pp.117-157.

第15回 Richard Norman, Killing the Innocent, in ibid., pp.159-206. + 期末レポート要旨報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度（30％）、予習状況（30％）、レポート（40％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行いたい。レポートは小レポートと期末レポートの2回出題する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は1名～若干名であろうから、事前の報告・質疑準備がかなりの頻度で必要になる。またレポート執筆のため各回の既習事項の反芻が求められる

履修上の注意 /Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。

必ず、履修前に、問題関心の確認、授業内容についての意見を聴くため、上記メールに連絡をください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済研究【夜】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎	国際政治経済の様々な理論を理解し、複雑化する国際政治経済の諸問題を専門的に論じることができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	国際政治経済に関する資料の収集と高度な分析ができる。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	国際政治経済に関する事項について、修得した知識と技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			国際政治経済研究	

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、グローバル化下における国際政治経済秩序の変容について、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

国際政治経済の基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

国際政治経済に関する資料の収集と高度な分析により問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

国際政治経済に関する事項について、実践的な問題にも自律的かつ主体的に関心を持つことができる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。

関下稔『国際政治経済学要論』晃洋書房、2010年

マーティン・ハート＝ランズバーグ『資本主義的グローバル化』高菅出版、2015年

○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年

Robert O'Brien, Marc Williams, Global Political Economy: Evolution and Dynamics, 4th edition, Palgrave MacMillan, 2013.

Ronen Palan, Global Political Economy: Contemporary Theories, 2nd edition, Routledge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。

○スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。

国際政治経済研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 国際秩序をめぐる政治と経済
- 第3回 グローバリゼーションと国際関係
- 第4回 国際政治経済の見方（1）重商主義
- 第5回 国際政治経済の見方（2）自由主義
- 第6回 国際政治経済の見方（3）批判理論
- 第7回 戦後の国際経済秩序の枠組み（1）ブレトン・ウッズ、GATT体制
- 第8回 戦後の国際経済秩序の枠組み（2）レジームの変容と課題
- 第9回 科学技術と国際政治経済
- 第10回 人の移動とグローバル化
- 第11回 金融のグローバル化と通貨危機
- 第12回 国際金融秩序の構築
- 第13回 地域主義の展開（1）北米の経済協定
- 第14回 地域主義の展開（3）アジアの多様性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...30%、授業参加（議論への貢献度など）...20%、期末レポート...50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には必ず復習すること。
必要に応じて事前課題を配布するので、読んでから授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学研究【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			イギリス文学研究	

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースとして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Fowles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ベルティンク、ハンス、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（イメージの起源）
- 3回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（死）
- 4回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（再生）
- 5回 文学テキストへの応用（Charles Dickens）
- 6回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（イメージと神話）
- 7回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（歴史）
- 8回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（古代芸術）
- 9回 文学テキストへの応用（P. B. Shelley）
- 10回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（スペクトル）
- 11回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（映像）
- 12回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（遠隔視）
- 13回 文学テキストへの応用（W. B. Yeats）
- 14回 イメージ形成と国家表象について
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント

イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストをよく読み、自分の意見をまとめておく。
授業でのディスカッションを踏まえ、各自の見解を再考察する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代イギリス文学研究 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			現代イギリス文学研究	

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を基軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソロー、“inhumanism”を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

DPに基づく3つの到達目標

- 《現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。》
- 《高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し、研究できるようになる。》
- 《専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。》

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

現代イギリス文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈【環境危機の時代における文学研究】
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈【環境文学研究の誕生】
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈【エコクリティシズムの定義】
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈【人文学と環境危機】
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈【アメリカにおけるエコクリティシズム研究】
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈【エコクリティシズムの未来】
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論: 授業を踏まえて(1)【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論: 授業を踏まえて(2)【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(80%)と毎回の授業への参加度など(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ずテキストの英語を訳し、内容理解を心がけ、疑問点などを明確にしておいてください。授業後はその内容に関しては常に問題意識を持ちつつ、アンテナを立て、最終的な課題レポートにつなげてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エコロジー、エコクリティシズム、ワーズワス、ロレンス、ソロー、ジェファーズ

英語表現法 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語表現法に関する高度な知識を身につける。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			英語表現法	

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

There are several goals for this course. One goal of the course is to be introduced to the conceptual frameworks for the qualitative and quantitative research traditions. Another goal is to learn what the components of an excellent research paper in your field are and learn to be a critical consumer of research. Another goal is to be able to make informed choices about how to approach a research question. Ultimately you will synthesize your knowledge in order to write your own research proposal.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語表現法に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

英語表現法に関する資料を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

英語表現法に関する課題を自律的かつ主体的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

Photocopied readings will be assigned each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

英語表現法 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Qualitative vs. Quantitative Research; Diagnostic test
 Week 2: Plagiarism, Research Proposals, Abstracts (writing summaries)
 Week 3: Library resources, bibliographic resources, Abstracts, cont.
 Week 4: Abstracts, Discuss research paper proposals
 Week 5: Research paper literature review
 Week 6: Literature review, cont. & Language Focus
 Week 7: Research paper Questions & Variables
 Week 8: Research paper Participants & Materials
 Week 9: Data analysis of quantitative experimental research (Results)
 Week 10: Structure of data commentary in a qualitative paper
 Week 11: Data analysis & data commentary language focus
 Week 12: The research paper conclusion (discussion section)
 Week 13: The evil of Power Point (informational design)
 Week 14: Getting published
 Week 15: Research proposal or paper presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Research proposal or paper (100%)
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation is necessary for this course. After you finish this course you will have learned how to write a successful research proposal or paper, and you will know how to write a research paper, use bibliographic citations correctly, and avoid plagiarism.

履修上の注意 /Remarks

This course will cover thesis writing for research that is both qualitative and quantitative, although the teacher is most familiar with quantitative research traditions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Thesis, writing, quantitative research, qualitative research

アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連				アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 Adventures of Huckleberry Finn を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論考する。以上の作業を行うことによってアメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できる高い問題解決能力と表現力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を自律的かつ主体的に深めることができる。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critical Edition ISBN: 978-0-393-96640-4

受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『ハックルベリーフィンの冒険』 大久保博訳 角川文庫

原書の全文訳が掲載されているのは、文庫本では上記翻訳のみなので、購入の際は注意すること。

(他の文庫本は、原書の一部を割愛した形での翻訳となっている。)

アメリカ文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------------------------|--|
| 1回 | 授業の進め方に関するオリエンテーション | Mark Twain に関する概説 |
| 2回 | 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説 | |
| 3回 | 1 - 4章 | 作中のキリスト教の位置づけ |
| 4回 | 5 - 8章 | アメリカ文学における父親のイメージ |
| 5回 | 9 - 12章 | ハックのジムに対する姿勢の本質 |
| 6回 | 13 - 16章 | ハックとジムの論争の描写の意味について |
| 7回 | 17 - 23章 | グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴 |
| 8回 | 24 - 27章 | 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義 |
| 9回 | 28 - 31章 | メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性 |
| 10回 | 32 - 35章 | なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。 |
| 11回 | 36 - 40章 | トムが主導するジムの救出作戦の描写基調は、何ゆえに生じているのか。 |
| 12回 | 41 - 43章 | ハックのジムに対する姿勢は作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。 |
| 13回 | 南部の奴隷制度に関する論文の読解 | |
| 14回 | 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解 | |
| 15回 | 作品に関する論文の読解、全体のまとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況...70% 発表...30%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代アメリカ文学研究 【夜】

担当者名
/Instructor

ウェイン・アーノルド / Wayne Arnold / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest “walkers” in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, *On The Road*, by Jack Kerouac, and *The Road*, by Cormac McCarthy—who is perhaps America’s greatest living author.

教科書 /Textbooks

Cormac McCarthy, *The Road*, Vintage (May 29, 2007)
Jack Kerouac, *On The Road*, Penguin Classics (February 24, 2000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal articles on the library database.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Introduction to course and expectations
- 2: Walking, and what it means in context
- 3: Henry David Thoreau
- 4: Walt Whitman
- 5: James Fenimore Cooper
- 6: John Dos Passos
- 7: Henry Miller
- 8: Jack Kerouac
- 9: John Steinbeck
- 10: Hunter S. Thompson
- 11: Bill Bryson
- 12: Paul Thoreaux
- 13: Gus Van Sant (director)
- 14: Cormac McCarthy
- 15: Final presentation and course review

現代アメリカ文学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Essay: 40%
Four 1-page summaries: 20%
Participation: 20%
Presentations: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please attend all classes; you will be expected to order the novels through Amazon, as you can find them very cheap.

履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English and students will be expected to participate in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not pass the course.

キーワード /Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.

英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科, 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Welcome to this course! In this course you will get a good overview of a number of important topics in the field of Second Language Acquisition (SLA). Researchers in this field conduct research into how children and adults learn languages as a way of illuminating the cognitive processes of the mind. Understanding how language is acquired will also help you understand ways in which language can be taught as well.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語教育学に関する高度な知識を身に付け、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。

【高い問題解決能力と表現力】

理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、高度な英語力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

教科書 /Textbooks

Brown, S. and Larson-hall, J. (2012). Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching. Univ of Michigan Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ortega, L. (2008). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

英語教育法研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction and Assessment (JLH & NY)
 Week 2: The Critical Period (JLH)
 Week 3: Bilingualism (JLH)
 Week 4: Input, Output & Interaction (JLH)
 Week 5: Attention and noticing (JLH)
 Week 6: Vocabulary (JLH)
 Week 7: Second Language Pragmatics (JLH)
 Week 8: Explicit and Implicit Learning (NY)
 Week 9: Corrections and recasts (NY)
 Week 10: Individual differences (NY)
 Week 11: Social approaches (NY)
 Week 12: Diversity in EFL classrooms (NY)
 Week 13: Teacher development I (ICT skills) (NY)
 Week 14: Teacher development II (Literature in EFL classroom) (NY)
 Week 15: Presentations of research papers (JLH & NY)

成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper: 40%
 In-class participation & discussion: 10%
 Presentations (2): 20%
 Weekly quizzes: 30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare every week by reading the chapter. Then we will have a quiz in class the following week. You will also choose a research topic early in the semester and work on a paper throughout the semester.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東北アジア研究概論 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE514S	◎	○	△
科目名	東北アジア研究概論 ※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

日本と朝鮮半島とは2千年にわたる歴史のなかで互いの文化の発展をもたらす多くの交流の一方で、国家間における戦争や対立を繰り返してきました。

ここでは、日本と朝鮮半島という東北アジア地域の視点から、その歴史・文化・政治・経済の研究について、日本・韓国の二国間とそれを越えた社会の視点から基礎的な研究方法をオムニバスで紹介いたします。具体的には、古代から江戸時代までの環東シナ海の国際関係と日韓関係（担当者八百3回）、東アジアの思想史における朝鮮と日本の思想文化の比較（担当者金3回）、日韓の政治と国際関係（担当者李3回）、朝鮮半島の分断構造と日本の安全保障（担当者柳3回）をリレー方式で行い、受講生にまとめてもらう予定です。

《高度な専門的知識・技能》

日本および朝鮮・韓国の歴史・文化・政治・経済に関する知識を日本列島および朝鮮半島からなる一つの地域として再構築することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

国家間の問題として捉えられがちな日本および朝鮮・韓国の関係を一国の利益と利害にとらわれることなく、北東アジア地域社会全体の利益という視点から問題解決を提言することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

複数の先行研究を客観的に整理して、自分の考えを述べることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 村井章介『中世倭人伝』（岩波書店、1993） ○荒野泰典『近世日本と東アジア』（東京大学出版会、1988）
- 三宅英利『近世の日本と朝鮮』（講談社、2006）
- 小倉紀蔵『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012）
- 小倉紀蔵『創造する東アジア』（春秋社、2011）
- 李鍾元・木宮正史・浅野豊美編『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』（法政大学出版局、2011）
- 吉澤文寿『戦後日韓関係：国交正常化交渉をめぐる』（クレイン、2005）
- 木宮正史編『朝鮮半島と東アジア（シリーズ日本の安全保障6）』（岩波書店、2015）
- 蓮池透・和田春樹ほか『拉致問題を考えなおす』（青灯社、2010）
- 宮城大蔵『現代日本外交史 - 冷戦後の模索、首相たちの決断』（中公新書、2016）

東北アジア研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 八百-古代・中世の東アジア世界と日韓関係史
- 第3回 八百-近世日本の対外関係と明清・朝鮮
- 第4回 八百-日本文化における中国・朝鮮の文化
- 第5回 金-兵学と儒学の比較研究
- 第6回 金-国学と朱子学の比較研究
- 第7回 金-思想史から見た日韓文化の比較
- 第8回 李-サンフランシスコ講和条約と戦後日韓関係
- 第9回 李-日韓会談（１）基本関係、請求権
- 第10回 李-日韓会談（２）残された問題
- 第11回 柳-朝鮮戦争と日本：「再軍備」と在日米軍
- 第12回 柳-北朝鮮の核開発と日本：拉致・核・ミサイル問題の包括的解決と多国間外交
- 第13回 柳-南北融和と日本：「統一された」朝鮮半島への潜在的警戒感
- 第14回 学生の報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告（４０％）と期末レポート（６０％）によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前にシラバスの授業計画を確認し、回付された資料を読んでおくこと。
- 事後に授業ノートを整理するとともに、説明された資料の内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会史概論 【夜】

担当者名 /Instructor	寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科											
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class					
対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS530S	◎	○	△
科目名	アメリカ社会史概論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

17世紀から現代までのアメリカ社会を、「自由」をキーワードに政治、経済、文化、思想など広範な視点から論じる授業を通して、アメリカ史に関する高度な専門的知識を修得させる。それを踏まえて、現代アメリカ社会における政治的・社会的・経済的な問題の根底にあるものについて考え、問題解決に向けた自分なりの意見を的確に表現する力を養成する。講義に際しては、適宜アメリカ史に関する基本文献や一次史料等を用いる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】
アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】
アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究により問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
自律的な態度でアメリカ社会の諸問題を主体的に発見・分析することができる。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 南北戦争までの時代：植民地時代～共和国形成期
- 3回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (20%)、授業への貢献度 (20%)、授業中の報告内容 (60%) により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読み込み、事後にノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

アメリカ社会史概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を積極的に読むことを薦める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域概論 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE531S	◎	○	△
科目名	イギリス地域概論		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

近代イギリスについて、文化の多様性を中心に引き上げ、現代イギリス社会を構成している諸要因を通時的に検討し、異文化理解の達成を図る。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた文献を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

文献の内容を正しく理解し、それを口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めることができる。

教科書 /Textbooks

井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 はじめに
- 2 回 宗教
- 3 回 政治文化
- 4 回 労働
- 5 回 福祉
- 6 回 教育
- 7 回 食文化
- 8 回 慣習
- 9 回 音楽
- 10 回 地域
- 11 回 女性
- 12 回 総力戦
- 13 回 死者追悼
- 14 回 帝国
- 15 回 若者文化

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。

授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

イギリス地域概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
キーワード /Keywords

現代中国経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN550S	○	◎	△
科目名	現代中国経済研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国経済や途上国、新興国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。この過程で中国経済研究等に関するジャーナルの輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能

中国をはじめとする新興国に関する知識、実証研究に必要なスキルを身に着ける。

高い問題解決能力と表現力

先行研究への貢献、実証分析に基づく政策提言を行う力を養う。

高い倫理観に基づいた自律的行動力

受け身の形ではなく、主体的に先行研究を収集し、自らの問題意識と分析のアイデアを実証的に検証する力を養う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
田中隆一『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』有斐閣 2018年
矢野剛『中国の企業間信用 経済発展とオルタナティブ金融』京都大学出版会 2015年
この他講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 中国経済、新興国経済の分析視点(1) SNA
 - 3回 中国経済、新興国経済の分析視点(2) 企業、金融
 - 4回 中国経済、新興国経済の分析視点(3) 政府
 - 5回 中国経済の近年の動向(1) SNA、経済発展、経済政策
 - 6回 中国経済の近年の動向(2) 投資、資本移動
 - 7回 実証分析の基本的考え方(1) 相関関係 因果関係
 - 8回 実証分析の基本的考え方(2) 因果関係 variable of the most interesting
 - 9回 実証分析の基本的考え方(3) variable of the most interesting コントロール変数
 - 10回 実証分析の実践(1) 仮説の設定
 - 11回 実証分析の実践(2) 仮説の検証
 - 12回 実証分析の実践(3) 政策提言
 - 13回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(1) 経済政策、経済成長
 - 14回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(2) 経済成長、市場経済
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

現代中国経済研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成、報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：ミクロ経済学、統計学、計量経済学の基本的知識を抑えておくこと。

事後学習：文献（論文）の講読を通じて得られた知見やスキルを、各自の研究に生かせるように実践的な応用を試みること。

履修上の注意 /Remarks

（主にミクロ）経済学、統計学及び計量経済学等の学部レベルの知識を習得していることがのぞましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治思想研究【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE518S	○	◎	△
科目名	東アジア政治思想研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、中国、朝鮮）の儒学と朱子学を比較研究する。それによって、三国の思想、思考様式などを比較考察する。とくに日本の江戸時代の徂徠学を中心として、その特質を原文講読しつつ分析考察したい。

DPに基づく三つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

活字化された江戸時代の資料や関連資料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的な行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり報告レジュメを作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

小倉紀蔵『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012） 5500円
『荻生徂徠全集』のなかの原文資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小倉紀蔵『創造する東アジア 文明・文化・ニヒリズム』（春秋社、2011）
○与那覇潤『中国化する日本』（文芸春秋、2011）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 第1章 【朱子学】【日本近代】
- 第3回 第2章 【儒教】【主体】
- 第4回 第3章 【理】【論理】
- 第5回 第4章 【朱子学的思惟】【階層性】
- 第6回 第5章 【垂直性】【水平性】
- 第7回 第6章 【こころ】【ニヒリズム】
- 第8回 第8章 【国体論】【靈魂】
- 第9回 第9章 【元田永孚】【教育勅語】
- 第10回 第10章 【福沢諭吉】【朱子学的半身】
- 第11回 第11章 【丸山眞男】【朱子学的半身】
- 第12回 第12章 【主体的韓国人】【朴鍾鴻】
- 第13回 第13章 【司馬遼太郎】【近代観】【朝鮮観】
- 第14回 第14章 【天皇】【カリスマ】【三島由紀夫】
- 第15回 まとめ

* 第3回以降の授業では『荻生徂徠全集』の原文資料をとりあげ、講読していく。

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告レジュメと発表、討論（70％）と期末レポート（30％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の予習、原文資料の講読、報告と討論の準備。事後の復習、関連文献の自主学習

東アジア政治思想研究【夜】

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。関連文献を多く読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの比較思想研究を通して、東アジアの過去、現在、未来を思想的に考えよう。

キーワード /Keywords

アジアから考える視点、文明論的な視点、比較思想

現代韓国経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN551S	○	◎	△
科目名	現代韓国経済研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

大韓民国は、朝鮮半島が1945年に日本の植民地支配から解放された後、半島の南側に成立した国家であり、「東アジアの奇跡」とも称された急速な経済発展を遂げた国である。日本と韓国は隣国として、政治・経済・文化といった様々な側面で密接な関わりを持っており、韓国経済の動向を知ることは、日本経済の将来を見通すうえでも有益な知見をもたらす。

この授業では、韓国経済の発展をもたらした諸要因について、歴史的な視点から考察・検討するための基本的知識を得ることに重点をおいた講義を行う。そのうえで、現代韓国経済が抱える課題と将来の見通しについて分析する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

現代の韓国経済に関する基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代の韓国経済についての先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立て表現することによって問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現代の韓国経済を客観的に捉えるようになることで、隣国との経済関係がどうあるべきか自律的かつ主体的に考察することができる。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三重野文春 / 深川由紀子編 (2017) 『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房
- 原朗 / 宣在源編 (2013) 『韓国経済発展への経路 - 解放・戦争・復興』日本経済評論社
- 安倍誠編 (2017) 『低成長時代を迎えた韓国』アジア経済研究所
- 廣田功 / 加賀美充洋 (2014) 『東アジアにおける経済統合と共同体』日本経済評論社
- ジェットロ・アジア経済研究所『アジア動向年報』各年版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 植民地時代の朝鮮半島
- 第2回 解放後、米軍政下の経済状況
- 第3回 朝鮮戦争の影響
- 第4回 李承晩政権と韓国経済
- 第5回 朴正熙政権の経済政策
- 第6回 輸出志向経済への転換
- 第7回 重工業化政策と財閥企業の成長
- 第8回 韓国経済の高度成長とその特徴
- 第9回 アジア金融危機 - 何が起こったのか
- 第10回 IMF支援と金大中政権の構造改革
- 第11回 経済のV字回復と格差拡大
- 第12回 現代韓国の産業構造
- 第13回 現代韓国の企業
- 第14回 若年層の就業機会と格差の固定化
- 第15回 少子化問題と韓国経済の未来

現代韓国経済研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー：30%，期末試験（論述問題）：70%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、JETROのHPにある「国・地域別に見る」(<https://www.jetro.go.jp/world/asia/>)のコーナーで、韓国の基本データや最近の経済ニュースを確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意 /Remarks

とくにありませんが、授業を受ける前に、韓国の本や映画、芸能文化などに触れてみて、これから学ぶ地域のイメージをふくらませておけば、授業がより楽しくなると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

かつて「近くて遠い国」と言われた韓国も、今やすっかり「近くて近い国」になった感があります。しかし民間交流が盛んになった一方で、政治的な摩擦が起きることも少なくありません。また、よく知っているようでありながら、いざ深く調べてみようと思うと、日本語でアクセスできる情報が意外と少ないというのも韓国特有の難しさかもしれません。この授業では、韓国を知るためのリサーチ方法を伝えるという点にも重点をおきたいと思っています。

キーワード /Keywords

韓国経済，輸出志向工業化，少子化問題，権威主義体制，格差問題，分断体制

東南アジア地域研究Ⅱ【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE519S	○	◎	△
科目名	東南アジア地域研究Ⅱ		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治・社会・エスニシティ（華僑、華人問題）、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習、報告も行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。

課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることがきるよう指導する。

DPに基づく3つの到達目標

【高度な専門知識・技能】近現代東南アジアや国際関係の資料を読むことができる。
【高い問題解決と表現力】自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。
【高い倫理観に基づいた自律的行動力】受け身の学習ではなく、進んで調べたり、図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：
岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
* 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。
- 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2018年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回 『アジア政治とは何か』序章を輪読、議論する
- 第3回 『アジア政治とは何か』開発体制を輪読、議論する
- 第4回 『アジア政治とは何か』各人が開発体制のいくつかの事例を紹介、議論する
- 第5回 『アジア政治とは何か』民主主義を輪読、議論する
- 第6回 アジア政治の課題について議論する
- 第7回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasの序章を輪読、議論する
- 第8回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのマレーシアを輪読、議論する
- 第9回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのインドネシアを輪読、議論する
- 第10回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのフィリピンを輪読、議論する
- 第11回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのタイを輪読、議論する
- 第12回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのベトナムを輪読、議論する
- 第13回 華人の東南アジアへの移住の歴史と国民国家建設における役割について議論する
- 第14回 これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
- 第15回 補足とまとめ

東南アジア地域研究II 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

これらによって、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかと判断して行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を精読すること。事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことのない場合は、外国語学部国際関係学科「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講するなど、自主的に・積極的に学習して欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

アメリカ社会史研究【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS531S	○	◎	△
科目名	アメリカ社会史研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

南北戦争後から20世紀前半のアメリカ合衆国の歴史・社会に関する講義・文献講読を通じて、各時代の主要なテーマを考える。また、授業を通して修得した知識を踏まえて、現代アメリカ社会における政治的・社会的・経済的な問題の根底にあるものについて考え、問題解決に向けた自分なりの意見を的確に表現する力を養成する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究により問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アメリカ社会の諸問題を自律的かつ主体的に発見・分析することができる。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2 回 再建期と金びか時代：政治再編
- 3 回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4 回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5 回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6 回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7 回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8 回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9 回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10 回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11 回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12 回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13 回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14 回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (20%)、授業への貢献度 (20%)、授業中の報告内容 (60%) により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず、指示された参考文献や資料をしっかりと読み込む。また授業後には、授業内容について整理する。

アメリカ社会史研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を、積極的に読むことを薦める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ人種関係研究【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE524S	○	◎	△
科目名	アメリカ人種関係研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ合衆国の人種関係について広く知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理することによって問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも自律的かつ主体的に関心を持つことができる。

教科書 /Textbooks

Gary Gerstle, American Crucible: Race and Nation in the Twentieth Century, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001.
David Roediger, The Wages of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991].
David Biale, Michael Galchinsky, and Susannah Heschel, Insider/Outsider: American Jews and Multiculturalism, Berkeley: University of California Press, 1998.
Karen Brodtkin, How Jews Became White Folks and What That Says About Race in America, New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1999.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 優生学の登場
3. 「新移民」と人種
4. ホワイト・エスニックとは
5. 反ユダヤ主義の系譜
6. 戦争と人種問題 1: アフリカ系アメリカ人
7. 戦争と人種問題 2: ホロコーストの記憶と反省
8. 戦争と人種問題 3: 日系人と強制収容
9. 公民権運動をめぐる議論 1: 1950年代
10. 公民権運動をめぐる議論 2: 1960年代前半
11. 公民権運動をめぐる議論 3: 1960年代後半
12. ポスト公民権運動期の人種関係
13. 文化多元主義と多文化主義
14. 今日のアメリカの人種関係とその展望
15. まとめ

アメリカ人種関係研究【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%
によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域研究【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE532S	○	◎	△
科目名	イギリス地域研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

イギリス社会と文化に関する英語文献を講読し、イギリスに関する理解を深める。最初に連合王国の周縁的な地域に関する文献を読み、続いてイギリスを含む近代社会の成り立ちを社会思想的に分析した著作を中心に議論を展開する。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた文献を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

文献の内容を正しく理解し、それを口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めることができる。

教科書 /Textbooks

S. Bassnett, Studying British Culture
成瀬治『近代市民社会の成立』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 はじめに
- 2 回 地域・文化研究の方法論
- 3 回 スコットランドの再定義
- 4 回 カムリカウェールズが
- 5 回 北アイルランド研究の現状
- 6 回 1914年までのイギリス: 変化と継続性
- 7 回 イギリスにおける階級とジェンダー
- 8 回 イギリス人の「生と死」
- 9 回 イギリスの家族構造
- 10 回 イギリスにおける「プロパティ」概念
- 11 回 イギリス社会における労働
- 12 回 イギリス社会における宗教
- 13 回 社会と国家
- 14 回 社会と社会理論
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

イギリス地域研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。
授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
IRL511S	○	◎	△
科目名	国際協力研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、新興援助国である中国や韓国が既存の国際開発レジームにとってどのような存在であるのかに焦点をあて、国際開発協力の最新の動向を理解します。とりわけ21世紀に入って以降の中国によるアフリカ援助は、アフリカの国々の経済成長を助けていると評価されるものの、その中国モデルは既存の援助ルールとは一線を画しています。そのことが従来のドナー国とのあいだに摩擦を生み出しており、今後の国際援助レジームの行く末を不透明にする原因となっています。授業では国際開発協力をめぐる国際政治にも焦点を当ててこの問題について考察します。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：国際開発協力研究の最先端の知識を身につけ、現在の状況を把握することができる。

高い問題解決能力と表現力：修得した知識をもとに、現在の状況が抱える課題について議論することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：修得したアカデミックスキルを駆使して、高度な文章によって学んだ内容をまとめることができる。

教科書 /Textbooks

Ian Watson, Foreign Aid and Emerging Powers, Routledge, 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

エマ・モーズリー『国際開発援助の変貌と新興国の台頭』明石書店、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 新興国の台頭と開発援助
- 第3回 ディスカッション
- 第4回 IR理論から考える新興国と地政学
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 アフリカにおけるアジアの援助国
- 第7回 ディスカッション
- 第8回 アジアにおける政府開発援助
- 第9回 ディスカッション
- 第10回 新興国、アジアの対外援助、地政学
- 第11回 ディスカッション
- 第12回 援助効果の議論と官民連携
- 第13回 ディスカッション
- 第14回 開発効果の議論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論への貢献度 (100%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献の該当ページをしっかりと読み込んでおくこと。事後学習としては翌週にディスカッションがあるので、学んだ内容を復習して、何を議論したいのかの論点を明確にしておくこと。

国際協力研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

また、開発援助の歴史と仕組みについて十分な知識が無ければ、学部の『国際協力論I』も併せて受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障研究【夜】

担当者名
/Instructor

戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
IRL513S	○	◎	△
科目名	安全保障研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

<DPに基づく3つの到達目標>

①高い問題解決能力と表現力

大学院修士課程レベルでの社会科学的な問題解決能力と口頭・文章での表現力を身に着ける。

②高度な専門的知識・技能

大学院修士課程レベルでの政治学的、哲学的知識・技能を修得する。

③高い倫理観に基づいた自律的行動力

価値をめぐる問題に対し客観的な視座から論理的に自ら思考するための能力を身に着ける。

教科書 /Textbooks

未定だが、メインとなる書籍は購入すること（例えば、下記のスケジュール例であれば、Just and Unjust Warがメインとなる。13回、14回、15回に用いる論文は事前にコピーを配布する）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

正戦理論については、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけではなく、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が不可欠になるかもしれない。

安全保障研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式を取り、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジюмеを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

※履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

第1回 ガイダンス

戦争倫理（正戦理論）関係の場合、以下のようなスケジュールを予定している。概ね、各回につき、20～30ページ程度の英語論文を2本読み、受講者には15～20分間の要旨報告×2本分（日本語）、質疑応答（日本語）をしてもらう。

例えば、次のような進行を想定している。（11回までは、Michael Walzer, Just and Unjust Wars; A Moral Argument with Historical Illustrations 4th Edn., Basic Books, 2008, を2章ずつ講読、各回ともに、15～20分×2章＝30～40分の要旨報告と質疑応答をしてもらう）

第2回 ch.1 Against Realism, ch.2 The Crime of War

第3回 ch.3 The Rules of War, ch.4 Law and Order in the International Society

第4回 ch.5 Anticipations, ch.6 Interventions

第5回 ch.7 War's Ends and the Importance of Winning, ch.8 War's Means and the Importance of Fighting Well

第6回 ch.9 Noncombatant Immunity and Military Necessity, ch.10 War against Civilians

第7回 ch.11 Guerrilla War, ch.12 Terrorism

第8回 ch.13 Reprisals, ch.14 Winning and Fighting Well

第9回 ch.15. Aggression and Neutrality, ch.16 Supreme Emergency

第10回 ch.17 Nuclear Deterrence, ch.18 The Crime of Aggression

第11回 ch.19 War Crimes, Soldiers and their Officers

第12回 Just and Unjust Warの総括、および、小レポートの要旨報告

第13回 Thomas Nagel, "War and Massacre," in T.Nagel et.al., eds., War and Moral Responsibility, Princeton UP, 1974.

第14回 Richard Norman, Killing in Self-defence, in Richard Norman, Ethics, Killing and War, Cambridge UP, 1995, pp.117-157.

第15回 Richard Norman, Killing the Innocent, in ibid., pp.159-206. + 期末レポート要旨報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度（30％）、予習状況（30％）、レポート（40％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行いたい。レポートは小レポートと期末レポートの2回出題する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は1名～若干名であろうから、事前の報告・質疑準備がかなりの頻度で必要になる。またレポート執筆のため各回の既習事項の反芻が求められる

履修上の注意 /Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。

必ず、履修前に、問題関心の確認、授業内容についての意見を聴くため、上記メールに連絡をください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
IRL514S	○	◎	△
科目名	国際政治経済研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※東アジア専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、グローバル化下における国際政治経済秩序の変容について、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

国際政治経済の基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

国際政治経済に関する資料の収集と高度な分析により問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

国際政治経済に関する事項について、実践的な問題にも自律的かつ主体的に関心を持つことができる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。

関下 稔『国際政治経済学要論』晃洋書房、2010年

マーティン・ハート＝ランズバーク『資本主義的グローバル化』高学出版、2015年

○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年

Robert O'Brien, Marc Williams, Global Political Economy: Evolution and Dynamics, 4th edition, Palgrave MacMillan, 2013.

Ronen Palan, Global Political Economy: Contemporary Theories, 2nd edition, Routledge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。

○スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。

国際政治経済研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 国際秩序をめぐる政治と経済
- 第3回 グローバリゼーションと国際関係
- 第4回 国際政治経済の見方(1) 重商主義
- 第5回 国際政治経済の見方(2) 自由主義
- 第6回 国際政治経済の見方(3) 批判理論
- 第7回 戦後の国際経済秩序の枠組み(1) ブレトン・ウッズ、GATT体制
- 第8回 戦後の国際経済秩序の枠組み(2) レジームの変容と課題
- 第9回 科学技術と国際政治経済
- 第10回 人の移動とグローバル化
- 第11回 金融のグローバル化と通貨危機
- 第12回 国際金融秩序の構築
- 第13回 地域主義の展開(1) 北米の経済協定
- 第14回 地域主義の展開(3) アジアの多様性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...30%、授業参加(議論への貢献度など)...20%、期末レポート...50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には必ず復習すること。
必要に応じて事前課題を配布するので、読んでから授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学研究【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT533S	○	◎	△
科目名	イギリス文学研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Fowles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ベルティンク、ハンス、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 イメージの起源(死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵)(イメージの起源)
- 3回 イメージの起源(死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵)(死)
- 4回 イメージの起源(死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵)(再生)
- 5回 文学テキストへの応用(Charles Dickens)
- 6回 芸術の神話(果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学)(イメージと神話)
- 7回 芸術の神話(果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学)(歴史)
- 8回 芸術の神話(果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学)(古代芸術)
- 9回 文学テキストへの応用(P. B. Shelley)
- 10回 スペクトル後(ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法)(スペクトル)
- 11回 スペクトル後(ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法)(映像)
- 12回 スペクトル後(ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法)(遠隔視)
- 13回 文学テキストへの応用(W. B. Yeats)
- 14回 イメージ形成と国家表象について
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストをよく読み、自分の意見をまとめておく。
授業でのディスカッションを踏まえ、各自の見解を再考察する。

履修上の注意 /Remarks

イギリス文学研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
キーワード /Keywords

現代イギリス文学研究【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT532S	○	◎	△
科目名	現代イギリス文学研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を基軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソロー、"inhumanism" を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

DPに基づく3つの到達目標

《現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。》
《高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し、研究できるようになる。》
《専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。》

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈【環境危機の時代における文学研究】
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈【環境文学研究の誕生】
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈【エコクリティシズムの定義】
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈【人文学と環境危機】
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈【アメリカにおけるエコクリティシズム研究】
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈【エコクリティシズムの未来】
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(1)【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(2)【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(80%)と毎回の授業への参加度など(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

現代イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ずテキストの英語を訳し、内容理解を心がけ、疑問点などを明確にしておいてください。授業後はその内容に関しては常に問題意識を持ちつつ、アンテナを立て、最終的な課題レポートにつなげてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エコロジー、エコクリティシズム、ワーズワス、ロレンス、ソロー、ジェファーズ

英語表現法 【夜】

担当者名
/Instructor

ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期

2学期

授業形態

演習

クラス

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIN531S	○	◎	△
科目名	英語表現法		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

There are several goals for this course. One goal of the course is to be introduced to the conceptual frameworks for the qualitative and quantitative research traditions. Another goal is to learn what the components of an excellent research paper in your field are and learn to be a critical consumer of research. Another goal is to be able to make informed choices about how to approach a research question. Ultimately you will synthesize your knowledge in order to write your own research proposal.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語表現法に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

英語表現法に関する資料を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

英語表現法に関する課題を自律的かつ主体的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

Photocopied readings will be assigned each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Qualitative vs. Quantitative Research; Diagnostic test
Week 2: Plagiarism, Research Proposals, Abstracts (writing summaries)
Week 3: Library resources, bibliographic resources, Abstracts, cont.
Week 4: Abstracts, Discuss research paper proposals
Week 5: Research paper literature review
Week 6: Literature review, cont. & Language Focus
Week 7: Research paper Questions & Variables
Week 8: Research paper Participants & Materials
Week 9: Data analysis of quantitative experimental research (Results)
Week 10: Structure of data commentary in a qualitative paper
Week 11: Data analysis & data commentary language focus
Week 12: The research paper conclusion (discussion section)
Week 13: The evil of Power Point (informational design)
Week 14: Getting published
Week 15: Research proposal or paper presentations

英語表現法 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Research proposal or paper (100%)
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation is necessary for this course. After you finish this course you will have learned how to write a successful research proposal or paper, and you will know how to write a research paper, use bibliographic citations correctly, and avoid plagiarism.

履修上の注意 /Remarks

This course will cover thesis writing for research that is both qualitative and quantitative, although the teacher is most familiar with quantitative research traditions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Thesis, writing, quantitative research, qualitative research

アメリカ文学研究【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT535S	○	◎	△
科目名	アメリカ文学研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 Adventures of Huckleberry Finn を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論考する。以上の作業を行うことによってアメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】
アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】
アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できる高い問題解決能力と表現力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を自律的かつ主体的に深めることができる。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critical Edition ISBN: 978-0-393-96640-4
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『ハックルベリーフィンの冒険』 大久保博訳 角川文庫
原書の全文訳が掲載されているのは、文庫本では上記翻訳のみなので、購入の際は注意すること。
(他の文庫本は、原書の一部を割愛した形での翻訳となっている。)

アメリカ文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------------------------|--|
| 1回 | 授業の進め方に関するオリエンテーション | Mark Twain に関する概説 |
| 2回 | 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説 | |
| 3回 | 1 - 4章 | 作中のキリスト教の位置づけ |
| 4回 | 5 - 8章 | アメリカ文学における父親のイメージ |
| 5回 | 9 - 12章 | ハックのジムに対する姿勢の本質 |
| 6回 | 13 - 16章 | ハックとジムの論争の描写の意味について |
| 7回 | 17 - 23章 | グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴 |
| 8回 | 24 - 27章 | 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義 |
| 9回 | 28 - 31章 | メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性 |
| 10回 | 32 - 35章 | なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。 |
| 11回 | 36 - 40章 | トムが主導するジムの救出作戦の描写基調は、何ゆえに生じているのか。 |
| 12回 | 41 - 43章 | ハックのジムに対する姿勢は作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。 |
| 13回 | 南部の奴隷制度に関する論文の読解 | |
| 14回 | 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解 | |
| 15回 | 作品に関する論文の読解、全体のまとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況...70% 発表...30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代アメリカ文学研究【夜】

担当者名
/Instructor

ウェイン・アーノルド / Wayne Arnold / 英米学科

履修年次 2年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス 2年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LIT534S	○	◎	△
科目名	現代アメリカ文学研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※文化・言語専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest "walkers" in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, *On The Road*, by Jack Kerouac, and *The Road*, by Cormac McCarthy—who is perhaps America's greatest living author.

教科書 /Textbooks

Cormac McCarthy, *The Road*, Vintage (May 29, 2007)
Jack Kerouac, *On The Road*, Penguin Classics (February 24, 2000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal articles on the library database.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Introduction to course and expectations
- 2: Walking, and what it means in context
- 3: Henry David Thoreau
- 4: Walt Whitman
- 5: James Fenimore Cooper
- 6: John Dos Passos
- 7: Henry Miller
- 8: Jack Kerouac
- 9: John Steinbeck
- 10: Hunter S. Thompson
- 11: Bill Bryson
- 12: Paul Thoreaux
- 13: Gus Van Sant (director)
- 14: Cormac McCarthy
- 15: Final presentation and course review

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Essay: 40%
Four 1-page summaries: 20%
Participation: 20%
Presentations: 20%

現代アメリカ文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please attend all classes; you will be expected to order the novels through Amazon, as you can find them very cheap.

履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English and students will be expected to participate in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not pass the course.

キーワード /Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.